

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群
和田上遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群
馬瀬口遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群
和田上遺跡 II

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群
馬瀬口遺跡 II

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会



和田上古墳墳丘上の石碑

昭和8年刊行の「南佐久郡の考古学的調査」で南佐久郡縄文時代大遺跡の双壁と八幡一郎氏により紹介されているように、和田上遺跡は古くから知られていた。さらに、遅って明治29年8月には、帝国大学理科大学教授坪井正

五郎氏が和田上遺跡の調査に訪れている。氏と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨大な碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。



前方中央の台地上上が和田上遺跡II B地区、左側の台地に勝負沢遺跡・寄山遺跡が存在した。豊かな湖の幸を授かった旧志賀湖畔の原始・古代の集落址である。

石器使用人民棲息之趾

凡古物遺跡二三類ノ別有り史書ニ徵シテ其何タルヲ知ルヲ得ベキモノ記録木
ダ備ハラザル時期ニ属スルモノ及ビ文字ノ傳フル所ニ先ンズルモノ是ナリ第
一ヲ有史時代第二ヲ原史時代第三ヲ先史時代ノ古物遺跡ト云フ信濃國ノ有史
時代古物遺跡ニ富ムハ普ク人ノ知ル所原史時代古物遺跡ニ乏シカラザルハ夙
ニ考古家ノ稱フル所而シテ近時人類學之志有ル者先史時代古物遺跡モ亦少カ
ラザルヲ云フ余義ニ帝國大學ノ命ヲ奉ジテ南佐久更級墳塚ノ三郡ヲ遍歷シ専
ラ第三類ニ属スル調査ヲ爲シテ眞ニ比類ノ遺跡甚多キヲ認メタリ南佐久郡中
瀬村大字瀬戸字和田上ニモ其一ヲ存ス余ガ之ヲ實踐シタルハ明治二十九年八
月二十日ニシテ此時嚮導ノ勞ヲ採ランタルハ多年古物遺跡ニ意ヲ注ギ居ラレ
タル同村神職青木造氏ナリ余ハ同行諸氏ト共ニ石礫石匙打製石斧凹石上器等
ヲ獲テラソ明カニセリ此人民ハ古ヨリ廣ク日本諸地方ニ繁殖セシ者ニシテ其謐盛ノ時ハ今ヲ距ル大曆三千年ノ昔ト云テ
可ナリ有史時代ノ古戰場原史時代ノ古墳墓ノ如キハ之ヲ採ル事敢テ難シトゼ
ザルモ先史時代ノ遺跡ニ至リテハ少シク注意ヲ怠レバ忽ト湮滅スルノ恐レ有
リ哉碑ヲ建テ其所在ヲ示スノ趣有ルヤ發起人諸氏余ニ文ヲ徵ス即チ此
記ヲ作りテ實ヲ塞グ後ノ遺跡實踐古物採集ニ志有ルノ士若シ之ヲ以テ道標ト
ナス事有ラバ啻ニ余ガ幸ノミナラズ諸氏ノ意モ達シタリト云フ可キナリ
明治二十九年十一月 帝國大學理科大學教授 坪井正五郎 撰
神職堀籠好雄謹書



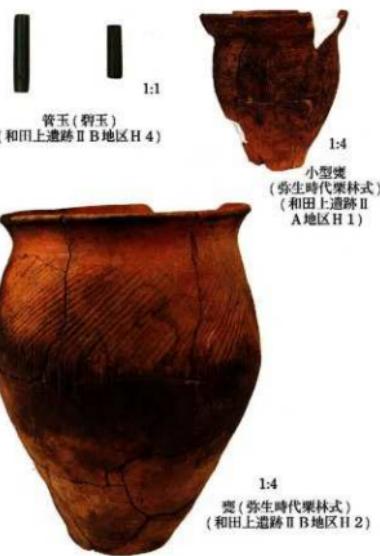
1:1
土鍬
(和田上遺跡II A地区
H 2号住居址出土)



1:2
石鍬
(和田上遺跡II B地区
Cトレンチ出土)



和田上遺跡II B地区D41号土坑
長軸長2.45mの長方形をした石棺墓である。小口側に培塿凝灰岩の平石を立積みしている。小罐市岩下道路・石神遺跡に類例がある。



和田上遺跡II B地区M 1号溝状遺構
検出された長さ22.8mの弥生時代中期栗林式期の環濠である。
佐久地区では、平賀後家山遺跡について2例目である。



和田上遺跡II B地区M 1号溝状遺構断面
溝の幅1.44~1.76m溝の底は0.17mで、防御施設にふさわしい
「V」字形の断面をしている。

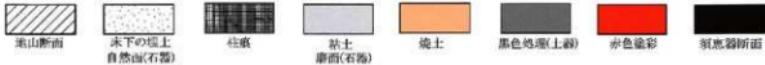


例　　言

1. 本書は、中部電力株式会社が行う佐久リサーチパーク供給線新設工事に伴う馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ及び高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 長野市柳町18 中部電力株式会社
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 馬瀬口遺跡Ⅱ(SNKⅡ) 佐久市瀬戸86-1外
和田上遺跡Ⅱ(WDⅡ) 佐久市瀬戸2-2、30-1外
5. 調査期間及び面積 馬瀬口遺跡Ⅱ
　　発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
　　整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
　　平成24年4月10日～平成25年3月 報告書刊行
　　開発面積 727m² 調査面積 43.2m²
和田上遺跡Ⅱ
　　発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
　　整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
　　平成24年6月29日～平成25年3月 報告書刊行
　　開発面積 681m² 調査面積 350.25m²
6. 発掘調査の担当 林幸彦・佐々木宗昭
7. 石質の鑑定は、羽毛田卓也が担当した。
8. 出土遺物自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址-H 土坑-D 溝状遺構-M ピット-Pである。
2. 掘図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。掘図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物掘図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたがい、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 掘図中のスクリーントーンは、以下のことを示す。



目 次

巻頭図版

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

　第1節 調査の経緯 1

　　1. 調査に至る経緯 1

　　2. 調査体制 1

　　3. 調査の経緯 1

　第2節 調査の概要 1

　　1. 遺跡の立地と環境 1

　　2. 基本層序 2

　　3. 検出遺構と遺物の概要 2

第Ⅱ章 遺構と遺物

　第1節 和田上遺跡Ⅱ A地区の遺構と遺物 2

　　1. 竪穴住居址 2

　　2. 上坑 8

　第2節 和田上遺跡Ⅱ B地区の遺構と遺物 9

　　1. 竪穴住居址 9

　　2. 上坑 16

　　3. 溝状遺構 28

　　4. ピット 32

　　5. 遺構外出土遺物 35

　第3節 馬瀬口遺跡Ⅱの遺構と遺物 35

　第4節 調査のまとめ 35

付表

付篇 和田上遺跡Ⅱの自然科学分析 (パリノ・サーヴェイ株式会社) 48

図版

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

今回、中部電力株式会社により佐久リサーチパーク供給線新設工事が計画された。佐久市横和宮の上遺跡群・西妻神遺跡から瀬戸馬瀬口遺跡群・高師町遺跡群までの総延長約3kmの範囲である。宮の上遺跡群と西妻神遺跡内は市街地現道路敷きのこと、範囲が0.8mと極狭であり工事中立ち会うこととした。馬瀬口遺跡群と和田上遺跡群は、遺跡の状況把握のため平成22年11月26日～12月7日試掘調査を実施した。両遺跡から遺構が検出され、遺物が出土した。保護協議の結果、平成23年度に記録保存の発掘調査を実施することになった。

2. 調査体制

平成23年度

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 上屋 盛夫

事務局 社会教育部長 伊藤 明弘
文化財課長 吉澤 隆



第1図 和田上遺跡II・馬瀬口遺跡II位置図(1:50,000)

社会教育部次長 藤巻 浩
文化財係長 三石宗一
文化財調査係専門員 林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也
文化財調査係 並木 節子 富沢 一明 上原 学 神津 一明(10月～)
井出 泰章(～9月) 出澤 力(～6月) 久保 浩一郎

平成24年度

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫

事務局 社会教育部長 伊藤 明弘
文化財係長 三石宗一

文化財課長 吉澤 隆

文化財調査係専門員 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学

文化財調査係 並木 節子 神津 一明 久保 浩一郎 林 幸彦(嘱託)

調査体制 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭 調査副主任 堀 益子
調査員 赤羽根充江 浅沼勝男 磐貝律子 市川光吉 飯森成英 岩崎重子
岩松茂平 白田鉢佳 白田 猛 柏木義雄 加藤ひろ美 狩野小百合
神津和子 神津千春 小林節子 小林千勝 坂井一夫 澤井知春
清水律子 副島充子 田中ひさ子 土屋邦子 中山清美 花里佐恵子
林まゆみ 羽毛田利明 平林麻朗 広瀬梨恵子 堀籠保子 依田三男
柳沢孝子 横尾敏雄 渡辺広野

3. 調査の経緯

平成23年 4月4日～6月3日 馬瀬口遺跡II・和田上遺跡II表土除去、遺構確認・遺構記録。

4月4日～7日 近隣接拶、器材搬入、調査区設定。4月19日和田上遺跡II B地区重機で表土除去。4月20日測量杭打設。4月28日和田上遺跡II A地区埋め戻し。6月3日～6日和田上遺跡II B地区埋め戻し。6月6日～8日器材撤収・整備。

4月26日～10月18日現場と併行して遺物整理作業。

平成24年 11月2日～平成25年3月25日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。

第2節 調査の概要

1. 遺跡の立地と環境

高師町遺跡群・馬瀬口遺跡群は、志賀川右岸浅間第一軽石流堆積地南端の台地上に立地し、標高は697m内外を測る。高師町遺跡群と和田上遺跡は古く知られていた。出土する縄文時代遺物の種類・数量の豊富

さは、南佐久郡佐久穂町の佐久西小学校裏遺跡と共に「南佐久郡大遺跡の双壁」と、昭和八年刊行の『南佐久郡の考古学的調査』で八幡一郎により紹介されている。さらに遡って、日本人類学会を発足させた坪井正五郎が明治29年8月に和田上遺跡の調査に訪れている。坪井正五郎と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨人な石碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。和田上遺跡の東方眼下に展開する水田地帯は、かつて食料資源が豊富な湖であった、志賀湖である。戦国期の佐久郡絵図に志賀川・香坂川・瀬早川・霞川の下流に志賀湖が明瞭にえがかれている。周辺には、この志賀湖を生活のよりどころの一端とした繩文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺跡が数多く知られている。湖の南縁台地上現在の佐久リサーバークに存在した寄山遺跡や勝負沢遺跡では、繩文時代前期・中期の竪穴住居址100軒等が調査された。台地北端には、湖に臨む寄山古墳も築かれていた。この調査では、15,800年前に大規模な火碎流(浅間火山第一種石流)が志賀湖を乗り越えたことが検証された。旧石器時代の植生が窺えるマツ科針葉樹の埋没樹の自然科学分析の結果である。今回検出された火碎流にパックされた埋没樹の分析も同様な結果を示している。湖北縁の台地上にある戸坂遺跡群の4次にわたる発掘調査で繩文時代中期・弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の集落の一端が検出されている。第2次・第4次調査で弥生時代後期の環濠と推定されている大きな溝状造構が発見され注目されている。さて、和田上遺跡は前述のように明治時代以前から繩文時代中期中葉の深鉢・後期の浅鉢の完形品などの土器や石器が様々な人々によって大量に採集されてきた。遺物の時代は、繩文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・に及ぶ。本調査では、繩文時代草創期の爪形文土器や早期の押形文土器も発見されている。発掘調査は、昭和54年に和田上南遺跡(和田上遺跡第1次調査)で行われている。弥生時代中期栗林期が4軒、平安時代が4軒検出された。平安時代の住居址から土鍤が出土している。今回の調査でも土鍤と石鍤が検出され、志賀湖畔集落の漁獵が積極的に推測できる。馬瀬口遺跡の第1次調査で古墳時代住居址4軒・平安時代住居址4軒等が発見された。南方の台地下志賀川第1段丘上の和田遺跡から、繩文時代後期堀之内式期の敷石住居址1軒が調査されている。豊かな湖の幸をもたらした志賀湖は、戦国末期にその姿を変えた。佐久郡を領地とした小諸城主仙石氏が文禄年間に志賀湖を干拓し、志賀湖を耕地化した。今回の調査地点である電力送電塔の東南眼下の川を堰き止める堤状の潜り岩の開削である。現在、広大な家畜改良センター長野牧場が展開している高師町遺跡群と馬瀬口遺跡群一帯の水利に乏しい火碎流堆積地の新田開発に挑んだ人々の歴史もある。まぼろしの村杉山新田開発である。常用水木や湯川からの用水確保は困難で、牧場用地内北東にある八幡宮や稻荷社付近にあった松ヶ池などの溜池が頼りであったようである。延宝7年(1679年)立村した杉山新田村は、寛延元年(1747年)70年間で消滅したという。和田上遺跡の調査地点は、杉山新田村の南東村境にあたる。

2. 基本層序

浅間火山軽石流堆積層が南方に漸次標高を下げているが、和田上遺跡一帯は逆に小高くなる。このため、南に下がる低地が両遺跡間から北東に延び、和田上遺跡の北側に展開する。両遺跡とも浅間火山軽石流堆積層の上面で、遺構確認された。馬瀬口遺跡では、II層中に部分的に砂層が見られた。

3. 検出遺構と遺物の概要

和田上遺跡 II A 地区 竪穴住居址 6軒(弥生時代中期・平安時代)、上坑2基。遺物 繩文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土鍤)、磨製石

和田上遺跡 II B 地区 竪穴住居址 7軒(繩文時代後期・弥生時代中期・平安時代)、土坑45基、溝状造構4条、ピット36基。遺物 繩文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土鍤)、磨製石

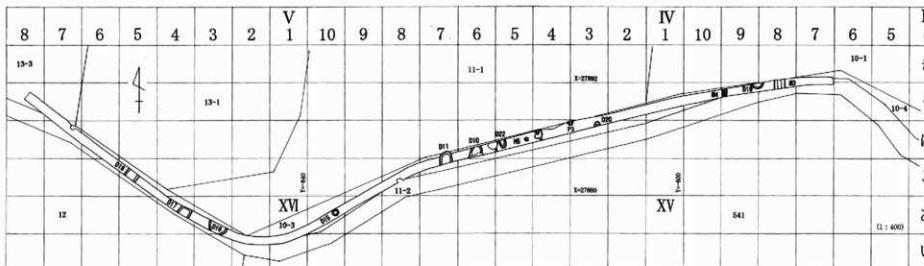
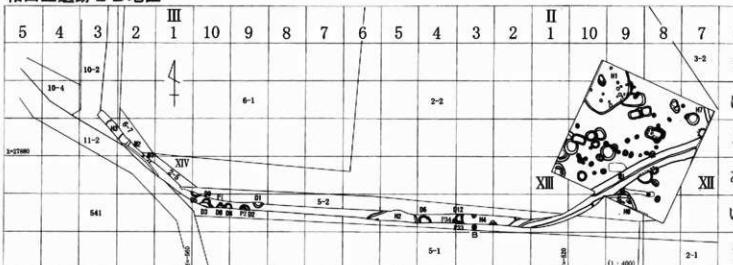
馬瀬口遺跡 II 竪穴住居址 1軒(平安時代)、溝状造構4条、ピット2基。遺物 土師器、須恵器、

第Ⅱ章 遺構と遺物

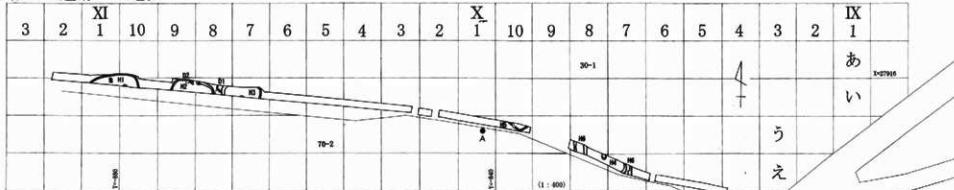
第1節 和田上遺跡 II A 地区の遺構と遺物

1. 竪穴住居址

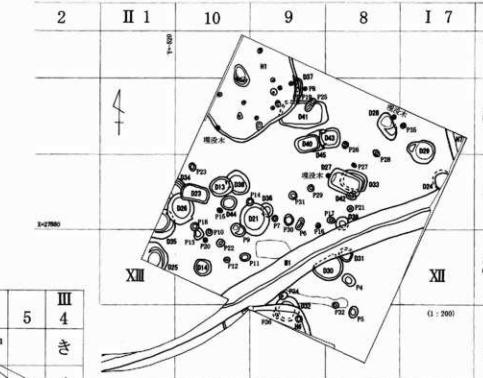
和田上遺跡 II B 地区



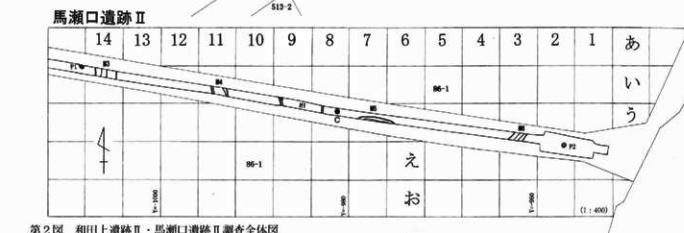
和田上遺跡 II A 地区



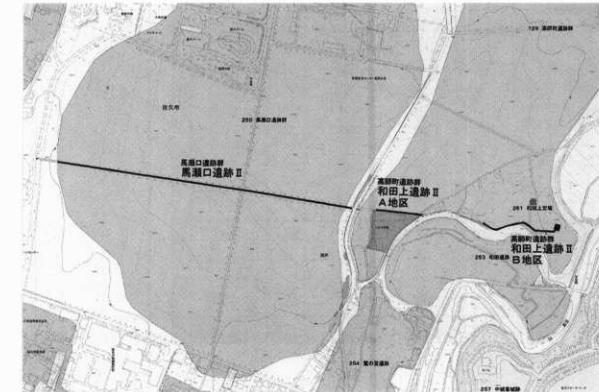
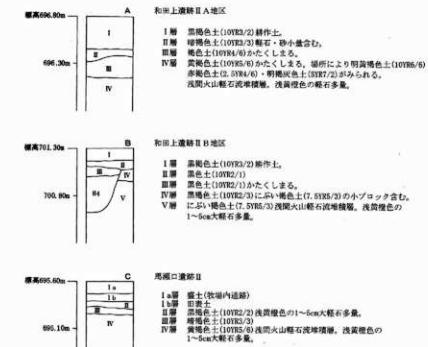
和田上遺跡調査区設定図(2) (1 : 2000)



馬瀬口遺跡 I



第2図 和田上遺跡 II・馬瀬口遺跡 II 調査全体図

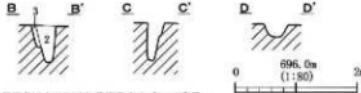
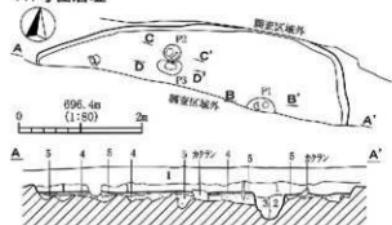


馬瀬口遺跡 II・和田上遺跡 II 調査区設定図(1) (1 : 8000)

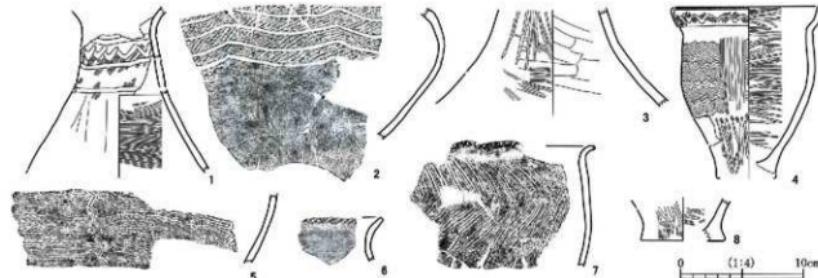
(1) H1号住居址

II区西端にあり、大半は南側の調査区域外となる。P2は棟持柱、P1は主柱穴である。床は堅く平坦である。遺物は弥生土器の壺・甕が出土した。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

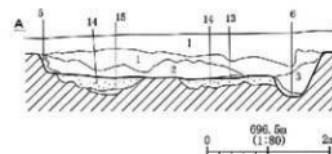
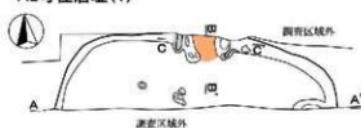
H1号住居址



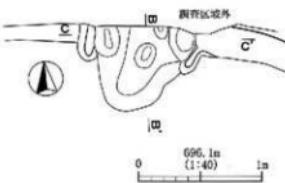
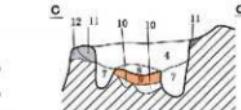
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土のブロック多量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) Lまだない。
- 3層 黑褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土のブロック多量。
- 4層 黄褐色土 (10YR3/0) 黄褐色土の粒子多量。灰。
- 5層 粘土土 (10YR4/4) 黄褐色土のブロック多量。堅方堆土。



H2号住居址(1)



- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 黑褐色土のブロック少量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 黑褐色土 (10YR3/0) 黄褐色土の小ブロック多量。
- 4層 黑褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土の粘土ブロック多量。
- 5層 粘土土 (10YR4/4) 黄褐色土の粘土ブロック多量。



6層 粘土土 (10YR2/3) に黄褐色土のブロック多量。

7層 黄褐色土 (10YR3/0) 黑褐色土の粘土ブロック多量。

8層 に黒褐色土 (10YR2/3) 灰。

9層 黑褐色土 (2.5YR1/6) 粘土 (10層の掛けたもの)。

10層 粘土土 (5YR3/2)。

11層 黑褐色土 (7.5YR2/3) 粘土。

12層 黑褐色土 (7.5YR2/2)。

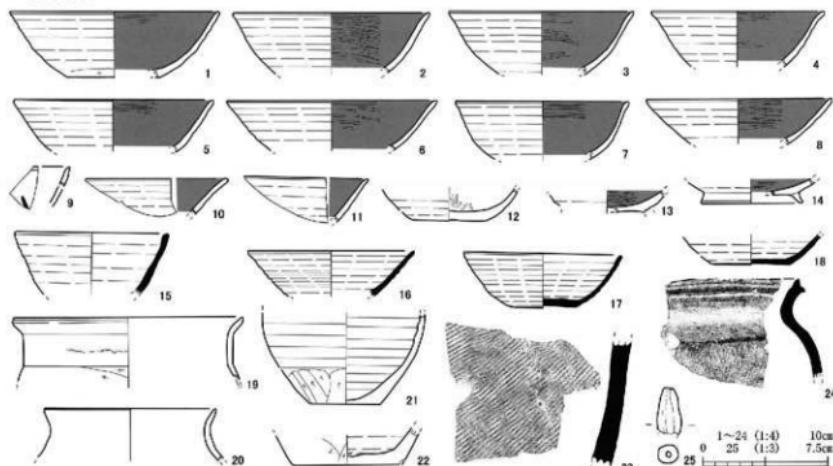
13層 黑褐色土 (10YR2/2) 粘土上 (粘土灰土の粘土ブロック含む)。

14層 粘土土 (10YR3/0) 粘土堆土。に黒褐色土の小ブロック多量。

15層 黑褐色土 (10YR2/2) 灰・灰含む。

第3図 和田上遺跡II A地区 H1号住居址・H2号住居址(1)

H2号住居址(2)

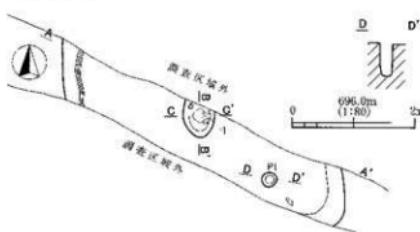


H3号住居址



第4図 和田上遺跡II A地区 H2号住居址(2)・H3号住居址

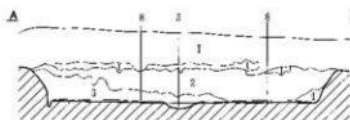
H4号住居址



D D'

696.0m
(1:80)

2m



697.1m
(1:80)

2m

Ia Ic

IIa IIc

IIIa IIIc

IVa IVc

C C'

696.0m
(1:80)

2m

1層 黄褐色土(10YR2/1)

2層 黑褐色土(10YR2/2) 細颗粒土+Q10V3G/3のブロック多量。

3層 黑褐色土(10YR3/3) 黃褐色土(Q10V3G/6)のブロック多量。

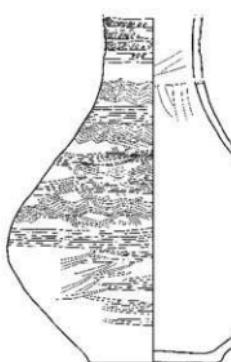
4層 棕褐色土(10YR7/2) に細い白土(17.5YR3/4)のブロック多量。

5層 黑褐色土(10YR2/1) 黒褐色土の塊状土質。

6層 黑褐色土(10YR2/2) P10vの黒鐵土。

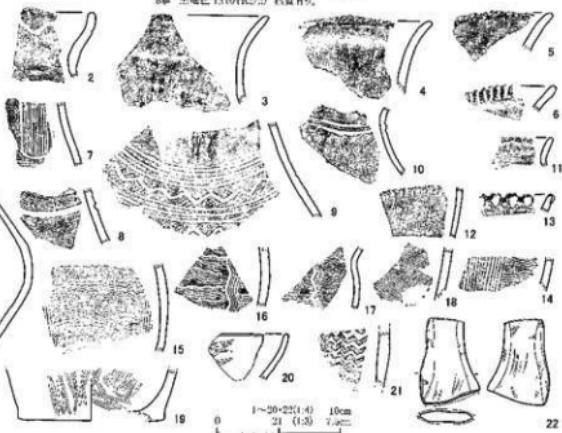
7層 にみる褐色土(17.5YR3/4) P10vの埋蔵土。

8層 にみる褐色土(10YR2/2) 黑鐵土。



696.9m
(1:80)

2m



1~20cm (1:20)

10cm (1:20)

H5号住居址



696.9m
(1:80)

2m

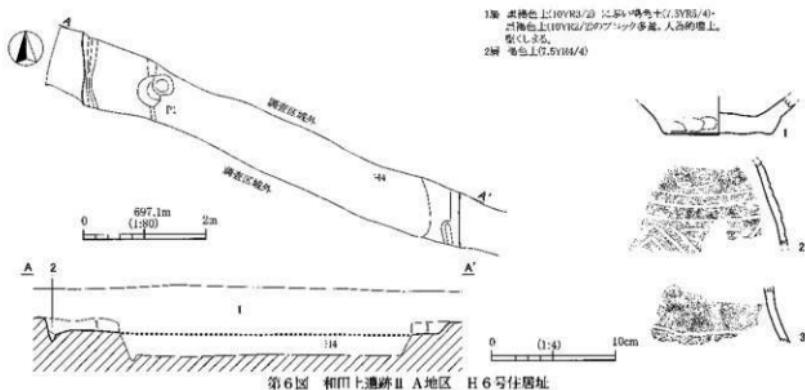
1層 黑褐色土(10YR3/3) 黑鐵土。

2層 黑褐色土(10YR3/4) 黑褐色土(Q10V3G/6)のブロック

多量。上部が灰(鉄鉱)。

壁面斑点。

第5図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H4号住居址・H5号住居址



第6図 和田上遺跡II A地区 H6号住居址

(2) II 2号住居址

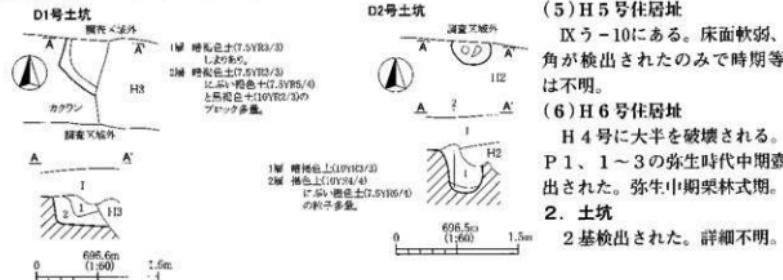
X-1 - 8・9Grにあり、D 2を切る。カマド付近が検出された。北壁中央のカマドは、粘土と黒褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床は堅く平坦である。遺物は、土師器2～11の壺か碗、13・14の碗、19～22の壺、須恵器壺15～18、甕23・24、25の土錠が出土した。1は底部外周手持ちヘラケズリ、1～8・10・11・13・14は内面黒色処理される。19は「コ」字口縁の武藏甕、21・22はロクロ甕である。9には墨書きが認められるが判読不能。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期～9世紀前半に位置づけられる。

(3) H 3号住居址

X-1 - 7・8Grにあり、北壁・南壁部分は調査区域外。床は堅く平坦である。遺物は、土師器壺か碗の1、碗か皿の2・3が出土した。3は内面黒色処理される。他に本址に伴わない縄文時代草創期の爪形文上器4、弥生時代中期の壺5、打製石斧7・8等がある。本址はこれらの遺物より平安時代であろう。

(4) H 4号住居址

IX-1 - 8、IX-7・8Grにあり、H 6を切る。地床炉が、住居址中央にある。この炉内部に1の壺が横倒して出土した。床は堅く平坦である。ピットは主柱穴と見られるP 1が確認された。西壁下に壁高が巡る。遺物は弥生土器の壺1～10、甕11～19、鉢20、22の砥石、本址に伴わない縄文時代早期の山形押形文上器が出土した。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。



第7図 和田上遺跡II A地区 D 1号土坑・D 2号土坑

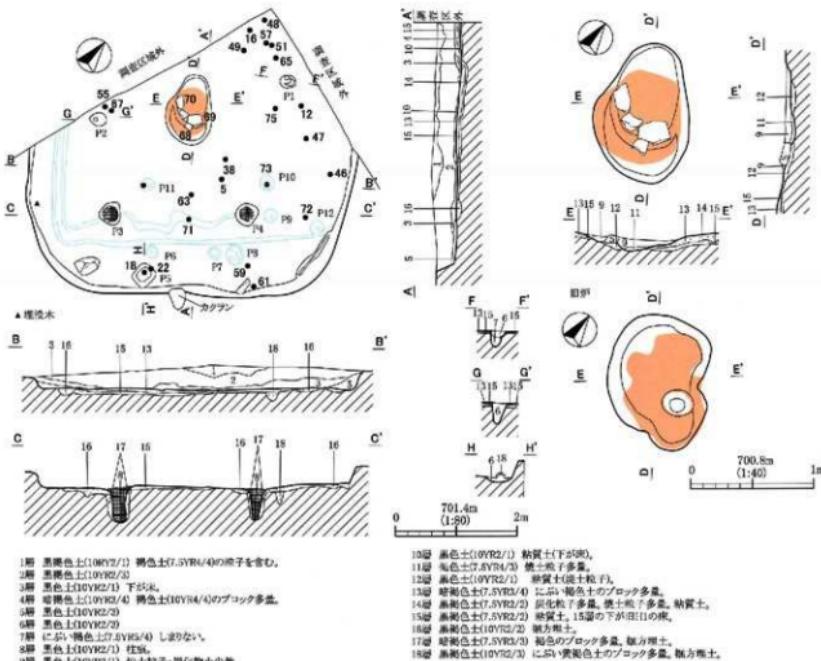
1層 増粘土(10YR3/3)に5cm弱の土(7.5YR5/4)と
黒褐色土(10YR2/3)のブロック多量。人骨の堆。
2層 黒色土(7.5YR4/4)

第2節 和田上遺跡 II B 地区の遺構と遺物

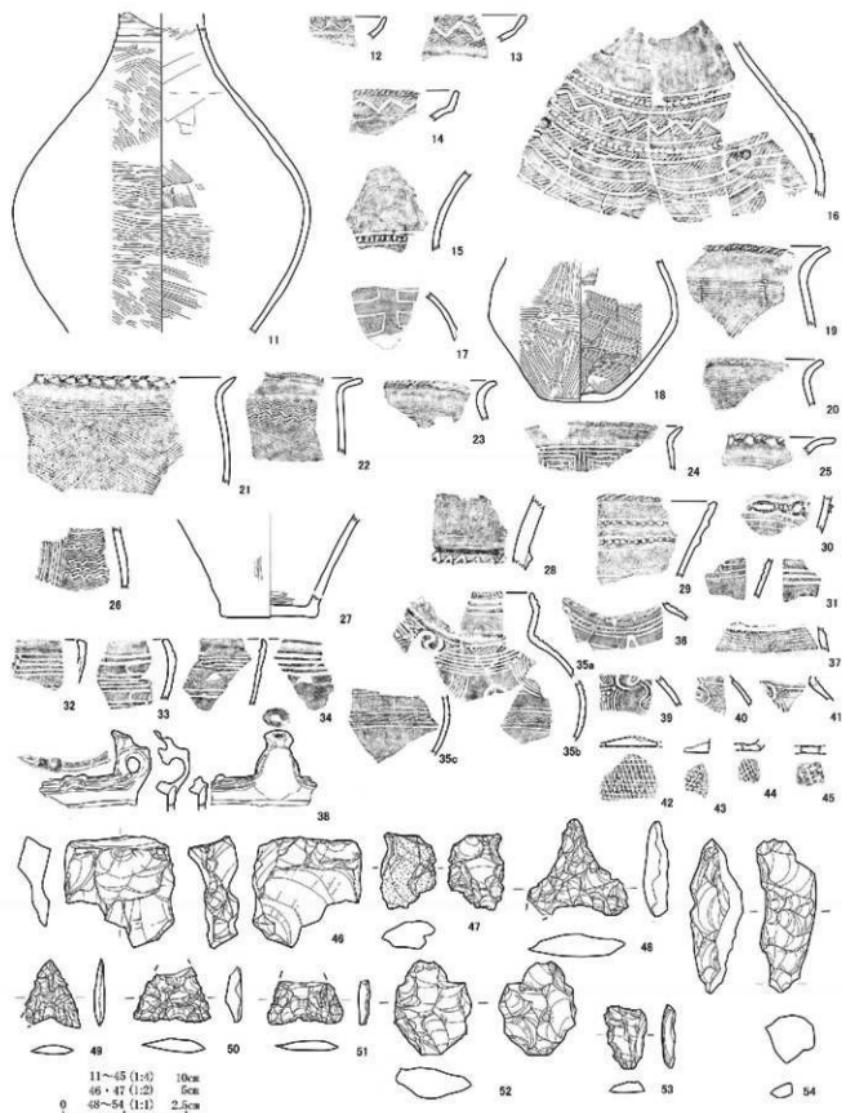
1. 壁穴住居址

(1) H 1 号住居址

Iく・け-9・10Grにある。D37、D41、P19を切る。4個の柱穴を持つ地床炉¹が住居址中央にあり、かの下に旧炉がある。ピットは12個検出、主柱穴P 3・P 4で柱痕が確認された。南壁のP 7・P 8は出入口施設か。床は堅く平坦。床下から南壁から西壁を巡る溝と床が検出され、旧炉の存在から住居南と西側が拡張されとみられる。遺物は弥生土器壺・甕・赤彩の鉢・台付甕、二枚貝、本址に伴わない縄文時代中期後半～後期初頭・堀之内式・賀曾利B 1式の土器が出土。石鎚・石錐・楔？・削器・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・台石・二次加工のある片剝など、石器の時期は明確でない。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。本址西壁下の埋没木(モクレン属)放射性炭素測定年代は13,700±40yrBP、暦年較正結果はcalBP16,913-calBP16,754 (calBC14,964-calBC14,805) であった。



第8図 和田上遺跡 II B 地区 H 1号住居址 (1)



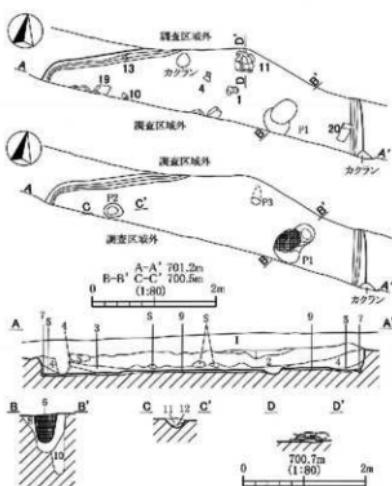
第9図 和田上遺跡II B地区 II 1号住居址 (2)



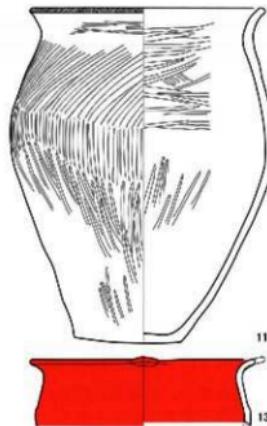
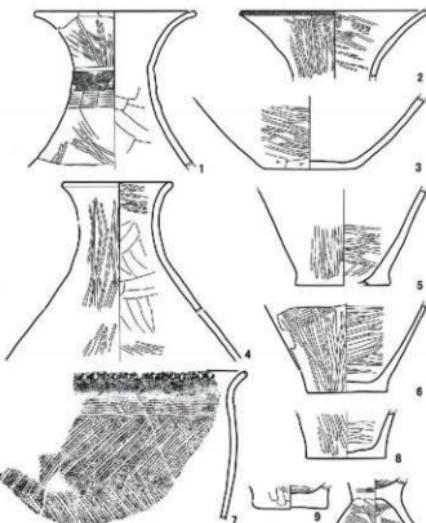
第10図 和田上遺跡II B地区 H2号住居址(3)

(2) H2号住居址

X IIIいー5・6Grにあり、大半は南側調査区域外にある。3個検出され、P 1は主柱穴で柱痕が確認された。P 3は南に傾く掘方である。床は堅く平坦。検出された東壁、北壁から西壁下には壁溝が認められた。床に達する4層上部に炭が多量に見られた。11の甕が横位で床面から出土した。遺物は弥生土器1~4の壺、5~9・11・12の甕、13の赤彩の高环、10の台付甕、石錐、敲石、磨石、台石、編み物石、石皿等の



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) しわがあり。
- 2層 黄褐色土(10YR2/4) しわがあり。
- 3層 黑褐色土(10YR2/3) しわがあり。
- 4層 塗膜有土(10YR2/1) しわがあり。
- 4層～5層に多量。
- 5層 黑褐色土(10YR2/3) しわあり。
- 6層 黑褐色土(10YR2/2) 粘重。
- 7層 黑褐色土(10YR2/1) しわあり。
- 8層 に少く黄褐色土(10YR4/3)
- 9層 黄褐色土(10YR2/1) 粘。堅しまる。
- 10層 黄褐色土(10YR4/3)
- 11層 に少く黄褐色土(10YR2/3) 小ブロック多量。
- 12層 に少く黄褐色土(10YR2/4)



第11図 和田上遺跡II B地区 H2号住居址

18~20(1:6)	15cm
1~13~15~17(1:4)	10cm
0	14(1:1) 2.5cm

石器(帰属時期不明)がある。1・2の壺、7・11の甕の口唇部に縄文LRが施文される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

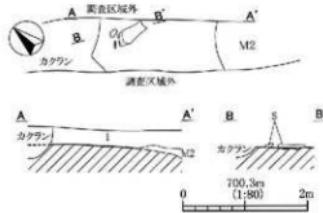
(3) H 3号住居址

Ⅲc-2・3Grにあり、M2に切られ、北西部分は耕作等の擾乱で破壊されている。平らな鉄平石が2枚水平に置かれていたため、縄文時代敷石住居かと判断したが積極的な確証はない。重複遺構のM2からは、縄文時代中期後半・後期堀之内1・壠之内2式土器が多く出土している。

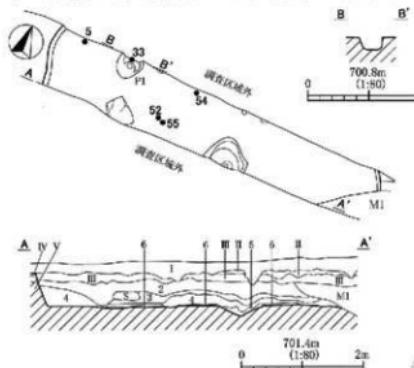
(4) H 4号住居址

XIII-a-2・3GrにありM1に切られ、大半は北東・南西側調査区域外にある。住居址ほぼ中央に地床炉がある。P1は主柱穴となる。床は堅く平坦。炉の周囲に床に張り付く6層の粘質土が見られた。管玉(碧玉)55が床面から54が20cm床上から出土した。

遺物は弥生土器内外赤彩の鉢1、壺2~23、甕24~36、管玉54・55、本址に伴わない縄文時代中期後半・壠之内1式・賀曾利B1式・後期の土器が出土した。帰属時期不明の石器、磨石・敲石・石鎌・打



第12図 和田上遺跡II B地区 H 3号住居址



1層 全体印序の裏版 黒褐色土(7.5YR 4/0)の粒子含む。

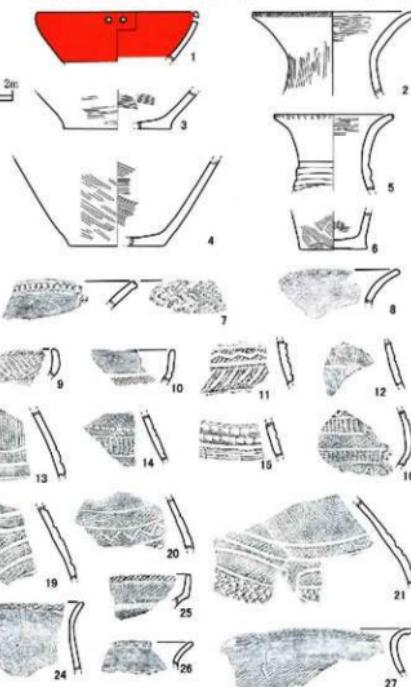
2層 黑褐色土(10YR 2/3)

3層 黑褐色土(7.5YR 2/1)

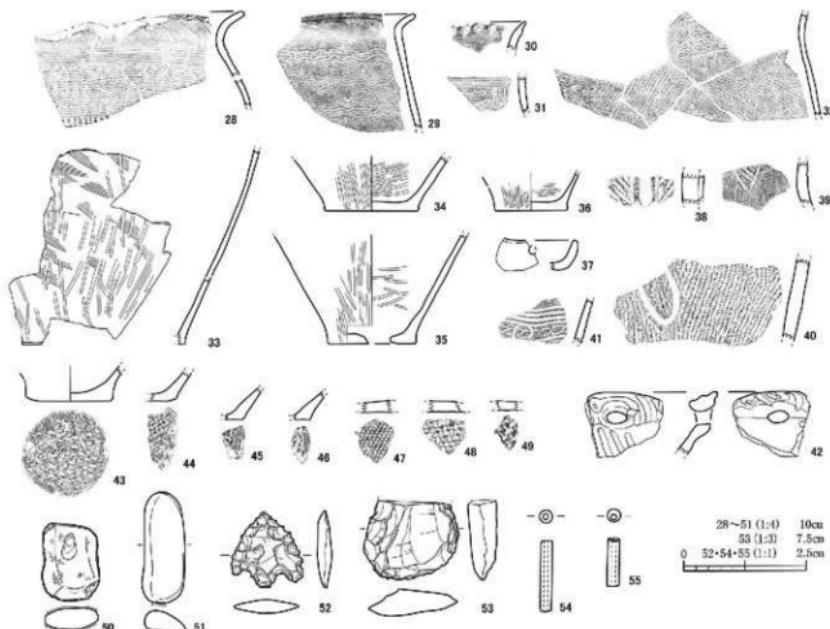
4層 黑褐色土(7.5YR 2/2)に54・55(碧玉)7.5YR 3/0の粒子多量。

5層 黑褐色土(7.5YR 2/2) 粘質土、燒土塊、少量土と岩質粒子。

6層 黑褐色土(10YR 2/3) 粘質土。



第13図 和田上遺跡II B地区 H 4号住居址 (1)



第14図 和田上遺跡II B地区 H4号住居址(2)

製石斧がある。

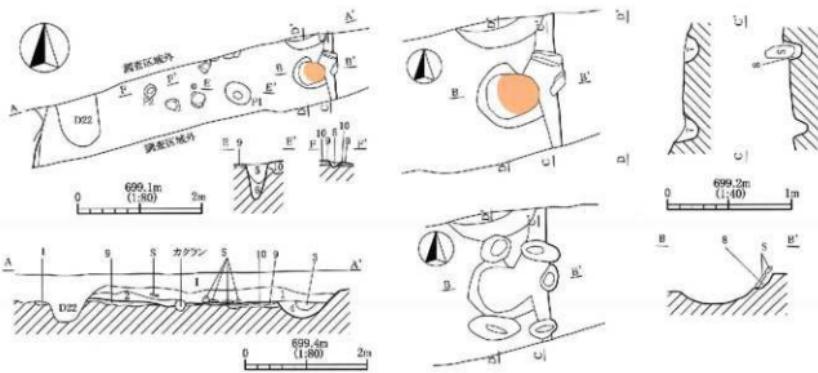
壺口縁部は単純口縁2・5受口口縁9・10が、口唇部施文には2・8・9の縄文LR 5のヘラ描刻目がある。7は口唇部に細い沈線と刻目、内面に櫛齒状工具の絞形状の刺突が施される。頸部・胴部の施文には、平行沈線間に縄文LRやヘラ描刻続山形文が多い。さらに、刺突列14・15、櫛齒状工具の刺突列14・16、ヘラ描刻山文12、U字状沈線区画内に櫛描刻線で充填する13などがある。甕口縁部は単純口縁24・26~30受口口縁25が、口唇部施文には24~27の縄文LRがある。30には、櫛齒状工具の押捺と刻目が施される。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(5) H 5号住居址

IVけ-4・5Grにあり、D22に切られる。住居北側と南側の大半は、調査区域外にある。カマドは、東



第15図 和田上遺跡II B地区 H5号住居址(1)



1層 黒褐色土(10YR2/2) 10~20cmの大な隆起む。

2層 黄褐色土(10YR2/6) 厚く地まる。

3層 黑褐色土(10YR2/4) 黄褐色土(10YR2/6) ブロック多量。

4層 黑褐色土(10YR2/2)

5層 黑褐色土(10YR2/3) 本体、灰黄褐色土(10YR6/2)ブロック壁間に合む。

6層 灰黄褐色土(10YR4/2) 土全体。

7層 棕褐色土(7.5YR4/3) しわかな。

8層 棕褐色土(10YR4/4)

9層 棕褐色土(10YR4/3) 岬、更くしめる。

10層 棕褐色土(7.5YR4/3) に灰、黑褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。無機土。

第14図 和田上遺跡II B地区 H 5号住居址 (2)

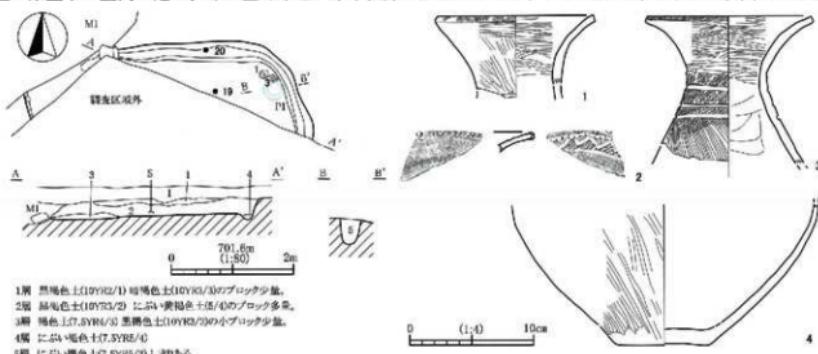
壁中央に設置され、火床と熔結凝灰岩の袖部芯材一部が残存していた。カマド火床の両脇から検出された小ピットは、袖部芯材となる礫を埋め込んだものであろう。カマド西側床面に散在している熔結凝灰岩は、構築材であろうか。ピットは2個検出された。床は堅く平坦。床下掘方は浅く、みられないところもある。

遺物は、土師器、本址に伴わない繩文時代土器中期後半・称名寺式・堀之内2式、弥生中期栗林土器が出土した。土師器は碗1~3、壺5、环か碗4・6・7がある。2以外は内面黒色処理される。1~3・5は、底部回転糸切り。5には「丈」が墨書きされている。6も墨書きが窺えるが判読不能。

本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期~9世紀前半に位置づけられる。

(6) H 6号住居址

X II-9・10GrにありM1に切られ、D32・P36を切る。住居南側の大半は、調査区域外にある。北壁・東壁下に壁高が遼る。床は堅く平坦、床下掘方は認められない。P1は蔽き床の下から検出できた。



1層 黒褐色土(10YR2/1) 灰褐色土(10YR6/3)のブロック少量。

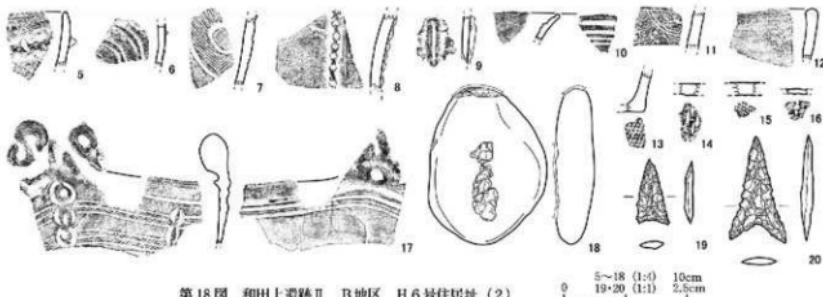
2層 黑褐色土(10YR2/2) に24・灰褐色土(10YR6/3)ブロック多量。

3層 黑褐色土(7.5YR4/3) 黑褐色土(10YR6/3)の小ブロック少量。

4層 に24・黑褐色土(7.5YR6/4)

5層 に24・黑褐色土(7.5YR6/3) しまわる。

第17図 和田上遺跡II B地区 H 6号住居址 (1)



第18図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H-6号住居址 (2)

0 5~18 (1:1) 19~20 (1:1) 10cm

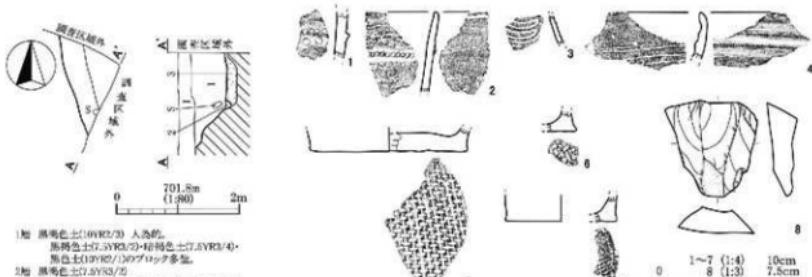
2.5cm

遺物は弥生土器壺1~4、本址に伴わない縄文時代後期前半・称名寺・堀之内2式・加曾利B1式・後期の土器、帰属時期不明確の石鎌・敲石が出土した。壺は3点とも単純口縁。1・3の口唇部に縄文LR、頸部にヘラ描平行次線が施される。3は地文縄文LR。2は口唇部に縄文LR刻みを付す小突起、内面口縁に沿ってヘラ描連続刺突その下地文縄文LRヘラ描連続山形文が施される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(7) H-7号住居址

1け・こ・7Grにある。調査できた範囲が狭く住居址といいきれない。遺物は、称名寺式・堀之内2式・加曾利B1式・後期のすべて縄文土器、石核が出土した。



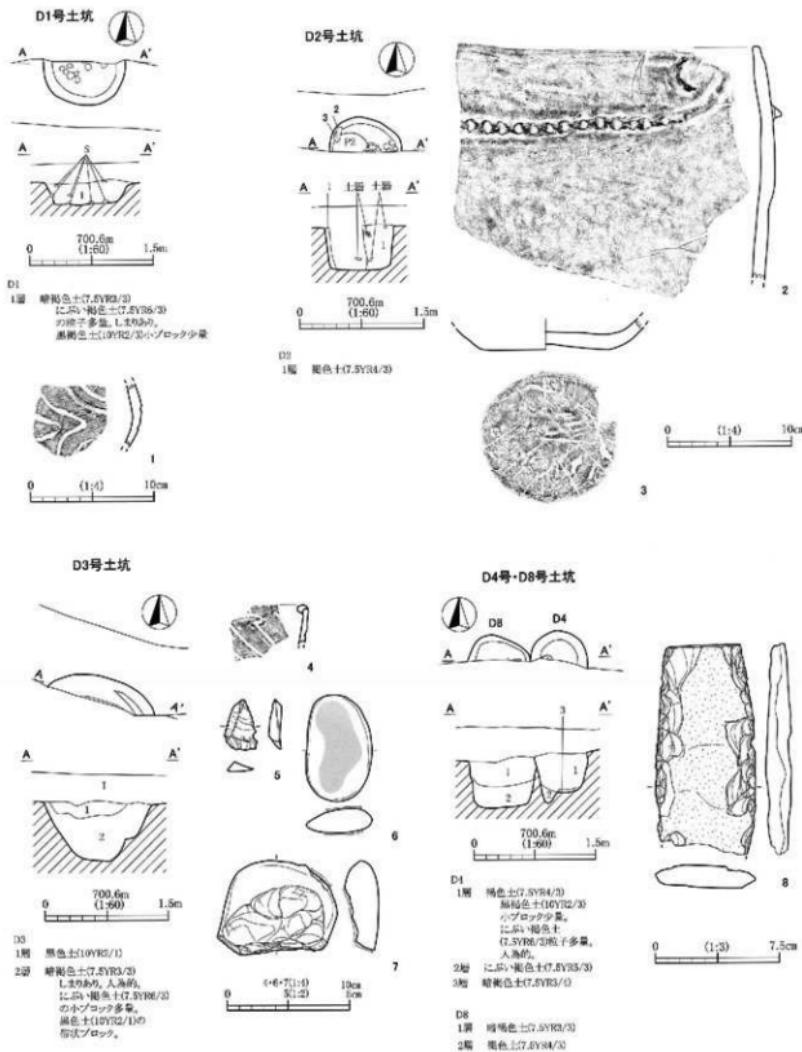
- 1地 黒褐色土(IVW2/2) 人骨的。
- 2地 黒褐色土(IVW2/2)・棕褐色土(IVYR3/4)・
- 3地 黑褐色土(IVW3/2) ブラック多量。
- 2地 黑褐色土(IVW3/2)
- 3地 黑褐色土(IVW3/2) に灰・褐色土(IVW5/3) ブラック多量。上部が砂とみられる。敷方組土。

第19図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H-7号住居址

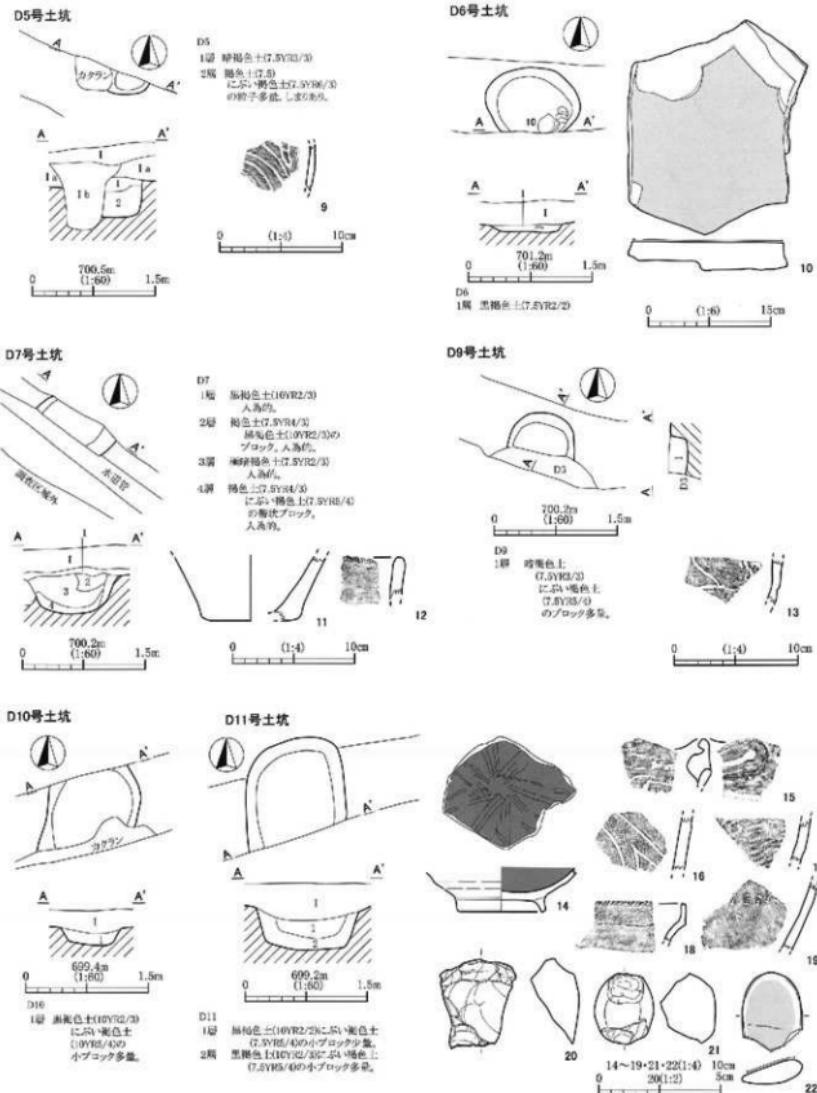
2. 土坑

45基が検出された。D10・D15・D17・D18・D22は出土遺物が皆無、D11・D16は9世紀前半のH5号住居址付近にあり同時期の土師器が出土した。他の35基から、縄文時代中期後半・称名寺・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1の土器や石器が出土した。縄文時代の土坑は、TT地点(鉄塔建設予定地)とXIII-1~9・10Grに集中する。覆土は大半が人為的な埋土である。

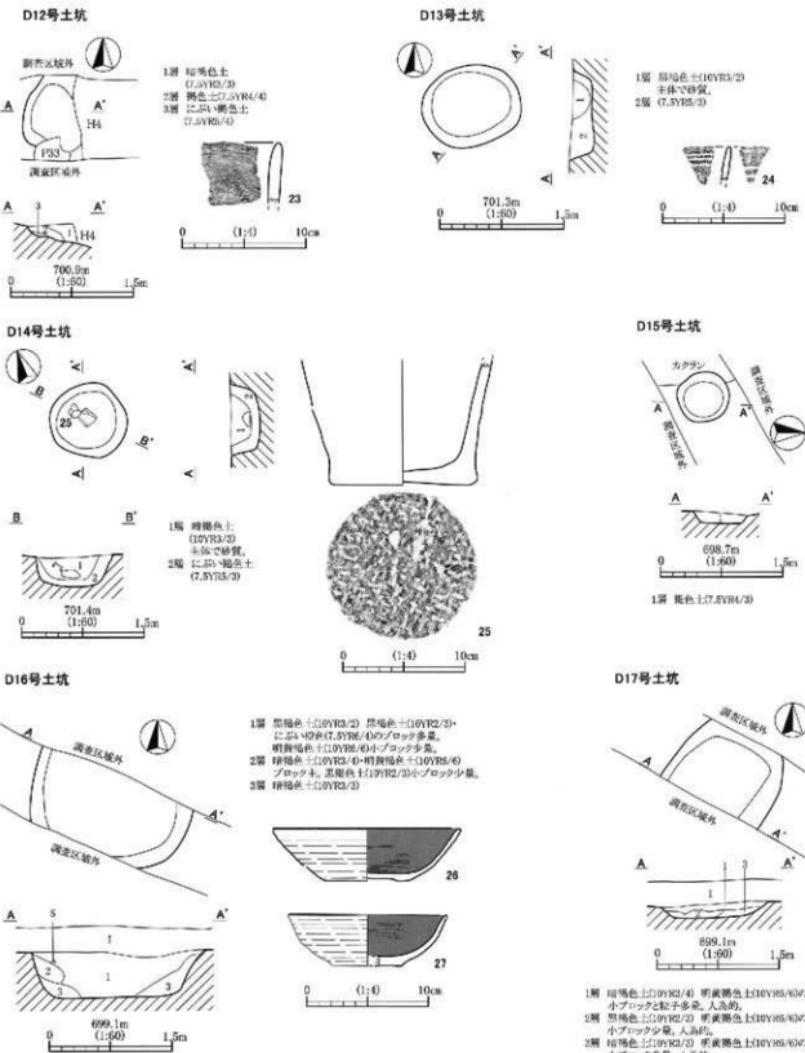
長方形状のD27・D33・D41号土坑は、小口側に熔結凝灰岩の平石が立積みされる。D45号土坑は側壁に平石が立積みされる。自然科学分析はしていないが、人骨が確認された小瀬市石神遺跡縄文時代後期第3号土坑墓、同市岩下遺跡堀之内2式期1号石棺に類例があり、縄文時代後期前半の墓といえよう。堀之内2式土器・大型獸類焼骨・炭化したオニゲルミが出土したD26は、ゴミ穴であろうか。このオニゲルミの放射性炭素測定年代は3,470±20yrBP、暦年較正結果はcalBP3,824-calBP3,695 (calBC1,875-calBC1,746) であった。称名寺式期の袋状土坑D24は、形態等から貯藏穴であろうか。



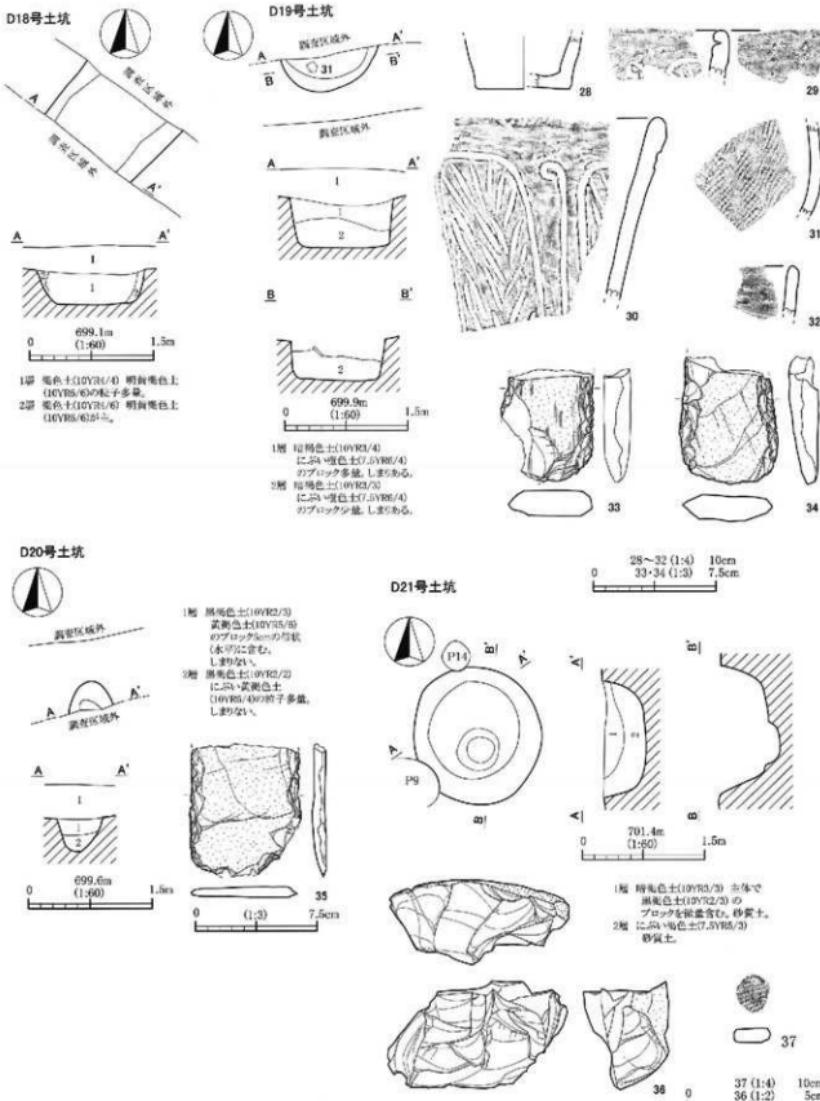
第20図 和田上遺跡II B地区 D1号・D2号・D3号・D4号・D8号土坑



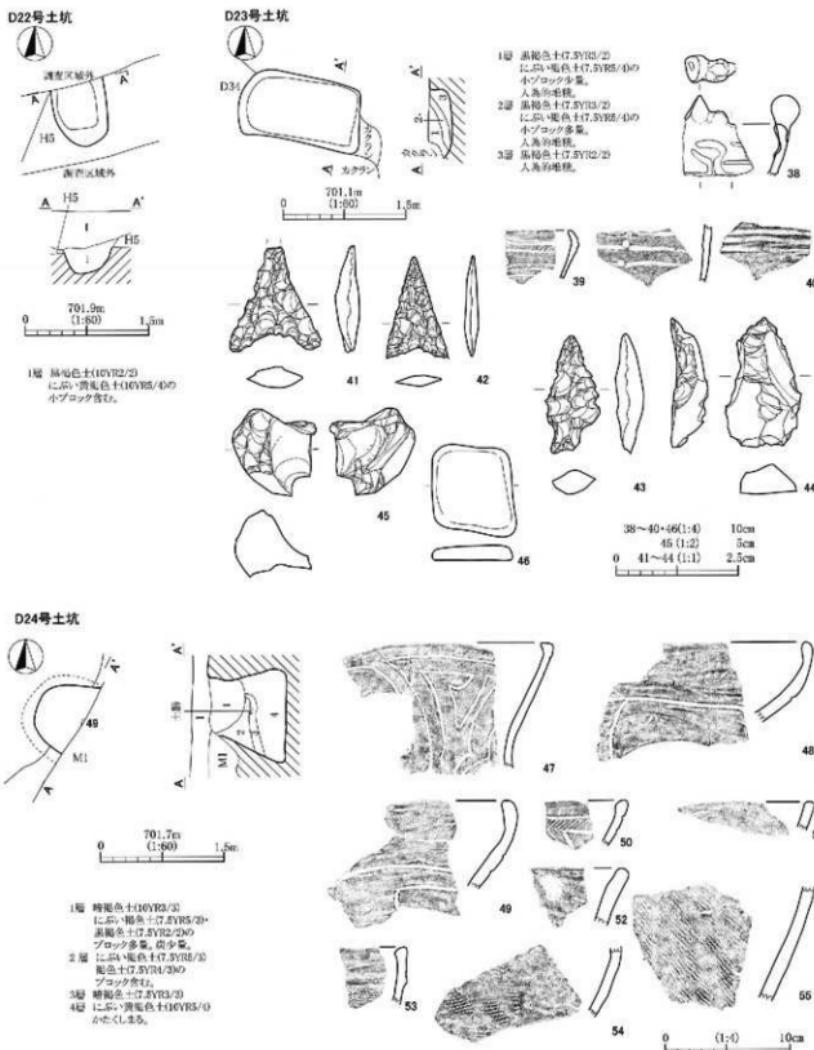
第21図 和田上遺跡II B地区 D5号・D6号・D7号・D9号・D10号・D11号土坑



第22図 和田上遺跡II B地区 D 12号・D 13号・D 14号・D 15号・D 16号・D 17号土坑



第23図 和田上遺跡II B地区 D 18号・D 19号・D 20号・D 21号土坑

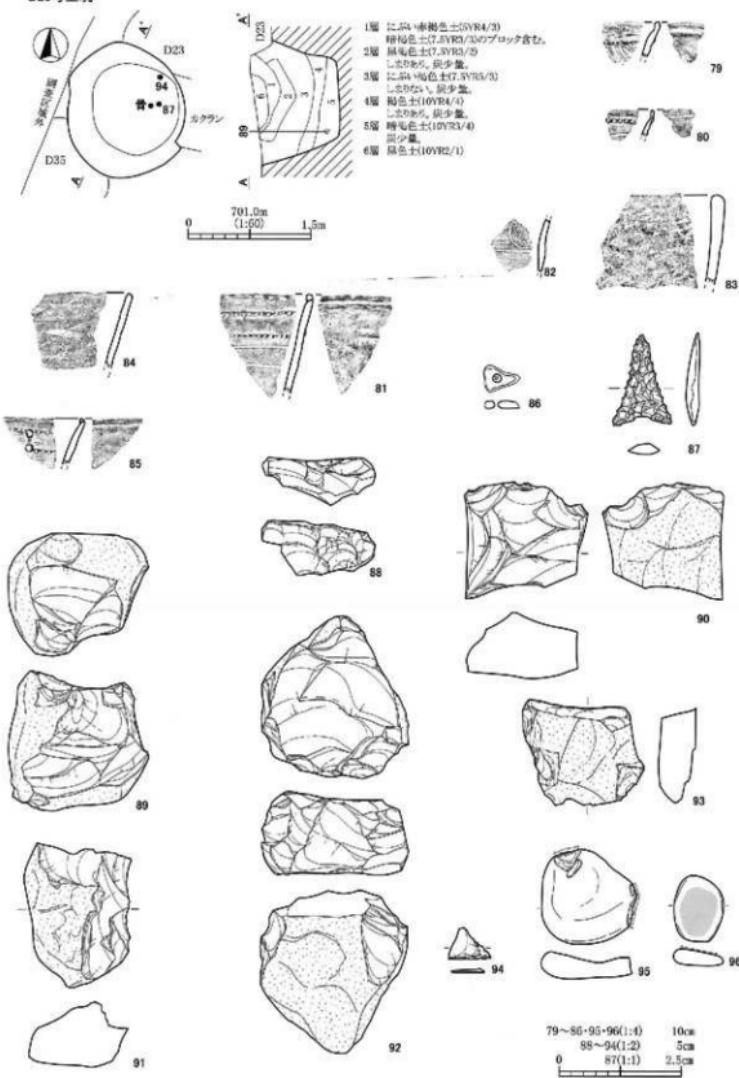


第24図 和田上遺跡II B地区 D 22号・D 23号・D 24号土坑

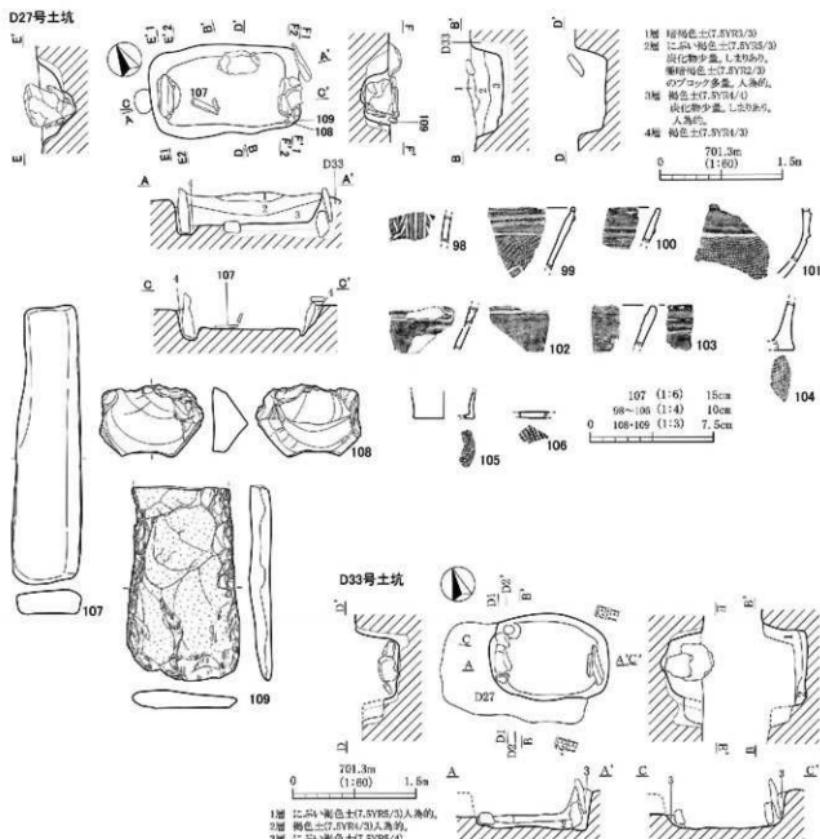


第25図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D25号土坑

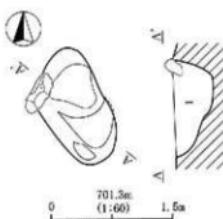
D26号土坑



第26図 和田上遺跡II B地区 D 26号土坑

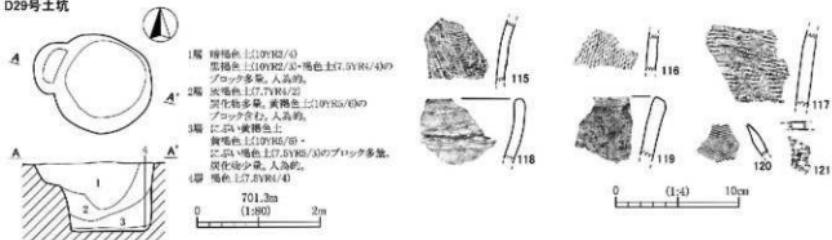


D28号土坑

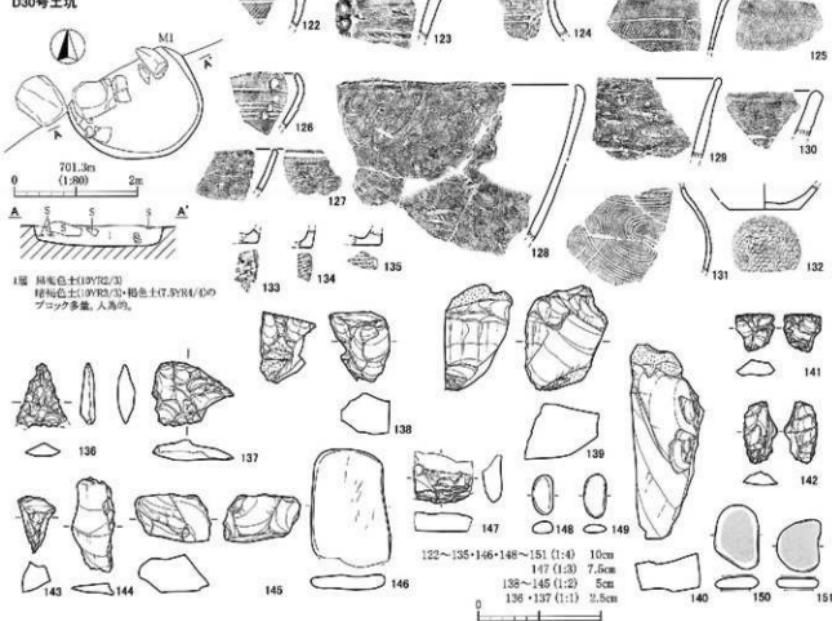


第27図 和田上遺跡II B地区 D27号・D28号・D33号土坑

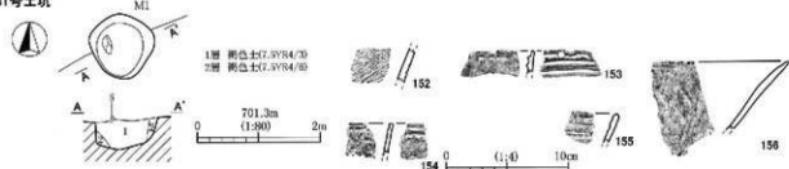
D29号土坑



D30号土坑

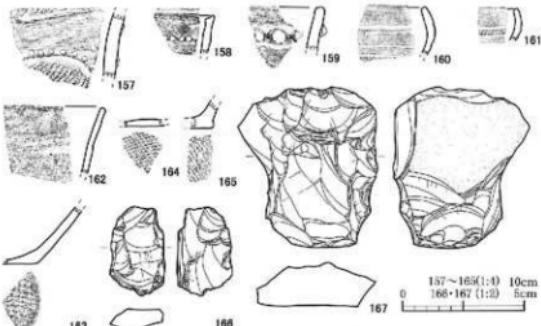
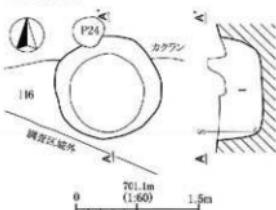


D31号土坑



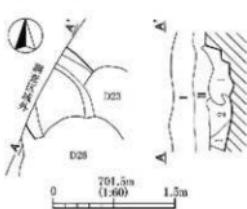
第28図 和田上遺跡II B地区 D 29号・D 30号・D 31号土坑

D32号土坑



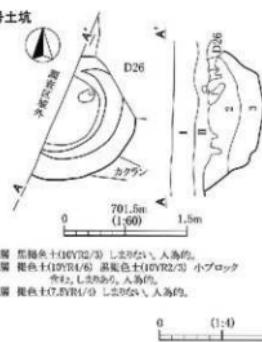
1層 灰褐色(1.5YRH/2)
兔色(1.5YR1/3)
褐色(1.5YR4/4)
のブロック多量。
黒色(10YR2/1)
小ブロック混入。
人為的。

D34号土坑

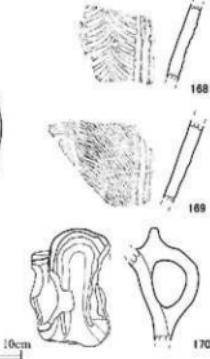


1層 全体底序の目録。
2層 黑褐色(1.5YR1/2) 黑褐色(1.5YR1/4)
のブロック多量。人為的。
3層 褐色(1.5YR4/4) 黑色(10YR1/4)
小ブロック含む。人為的。

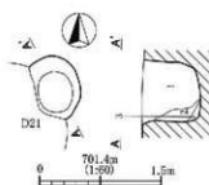
D35号土坑



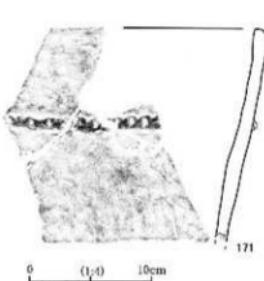
1層 黑褐色(10YR2/3) なし。人為的。
2層 棕褐色(10YR4/6) 黑褐色(10YR2/3) 小ブロック
含む。人為的。人為的。
3層 黑色(1.5YR1/2) なし。人為的。



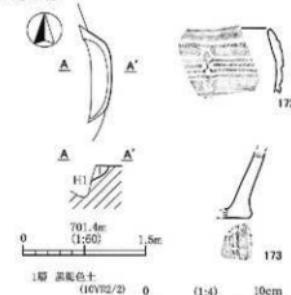
D36号土坑



1層 黄色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR4/6)
ブロック多量。灰少。
人為的。
2層 灰褐色(2.5YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)
ブロック少。人為的。
3層 黄色土(10YR4/6)

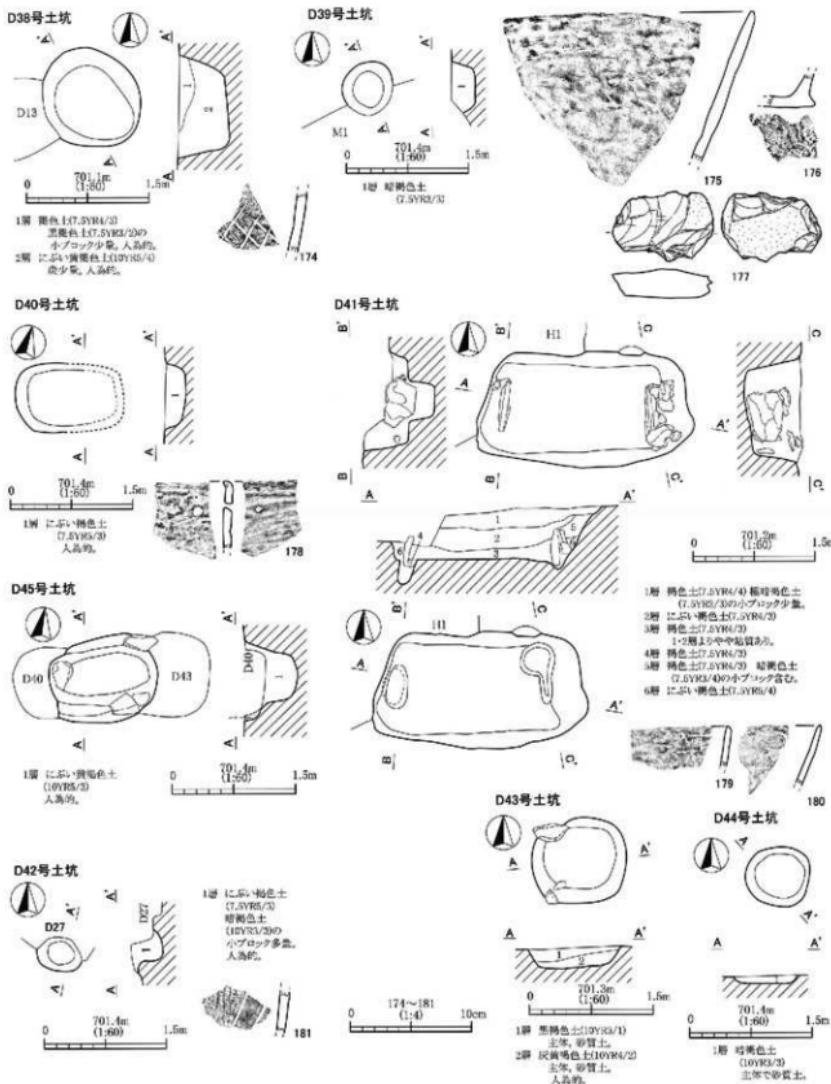


D37号土坑



1層 黑褐色土
(10YR2/2) 0 (1:4) 10cm

第29図 和田上遺跡II B地区 D 32号・D 34号・D 35号・D 36号・D 37号土坑

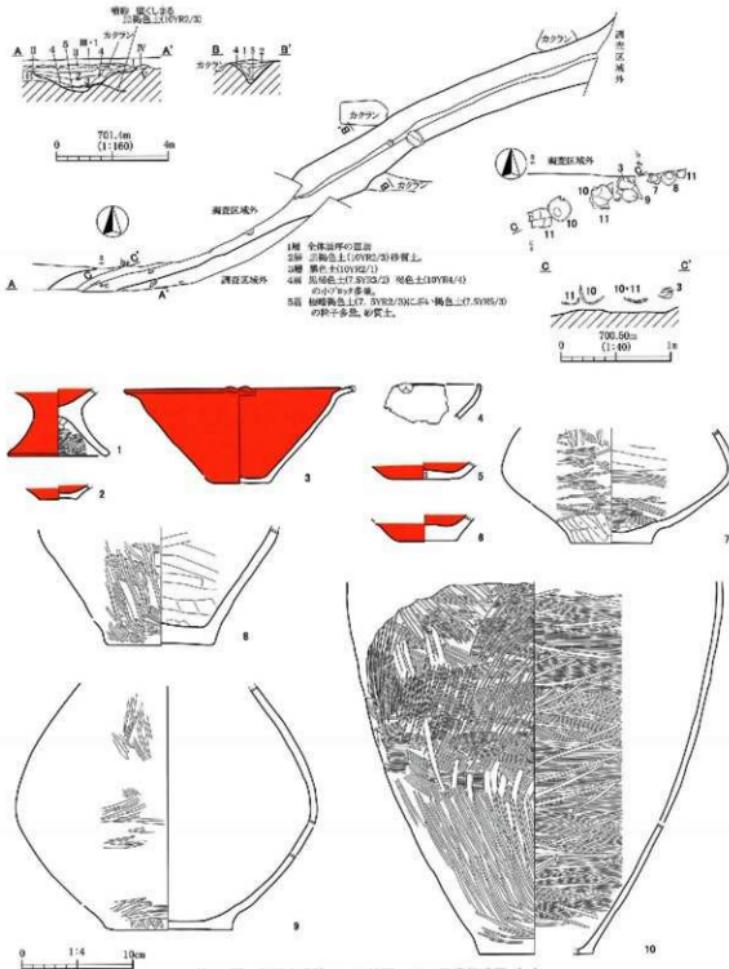


第30図 和田上遺跡II B地区 D 38号・D 39号・D 40号・D 41号・D 42号・D 43号・D 44号・D 45号土坑

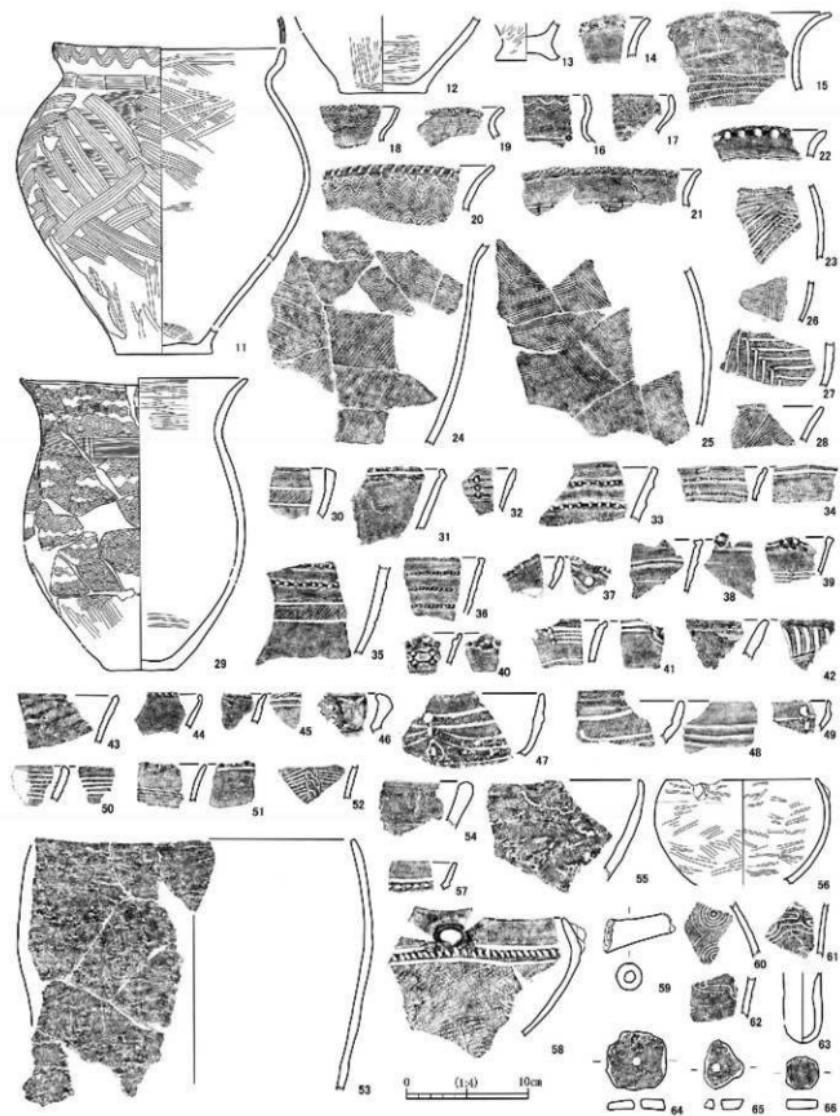
3. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

Iご-7・8、XⅡあ・い-8~10、XⅢい-1・2Grにあり、H4・H6・D24・D30・D31・D39を切る。検出長22.8m幅1.44~1.76m深さ0.67~0.86m、溝底は東から西へ下がり勾配0.44mを測る。断面は「V」字形で溝底幅が狭いところでは0.17mである。遺物は弥生時代中期栗林式土器、高环1、鉢2~6、壺8・9・14・15、甕10~12・16~26、台付甕13・27、後期箱清水式土器28・29、縄文時代土器2~



第31図 和田上遺跡II B地区 M1号溝状遺構 (1)



第32図 和田上道路II B地区 M1号溝状遺構(2)

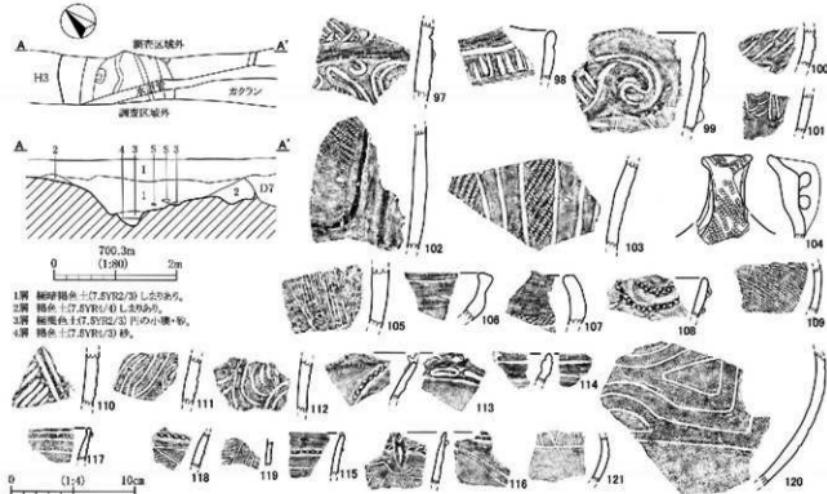


第33図 和田上遺跡II B地区 M1号溝状遺構 (3)

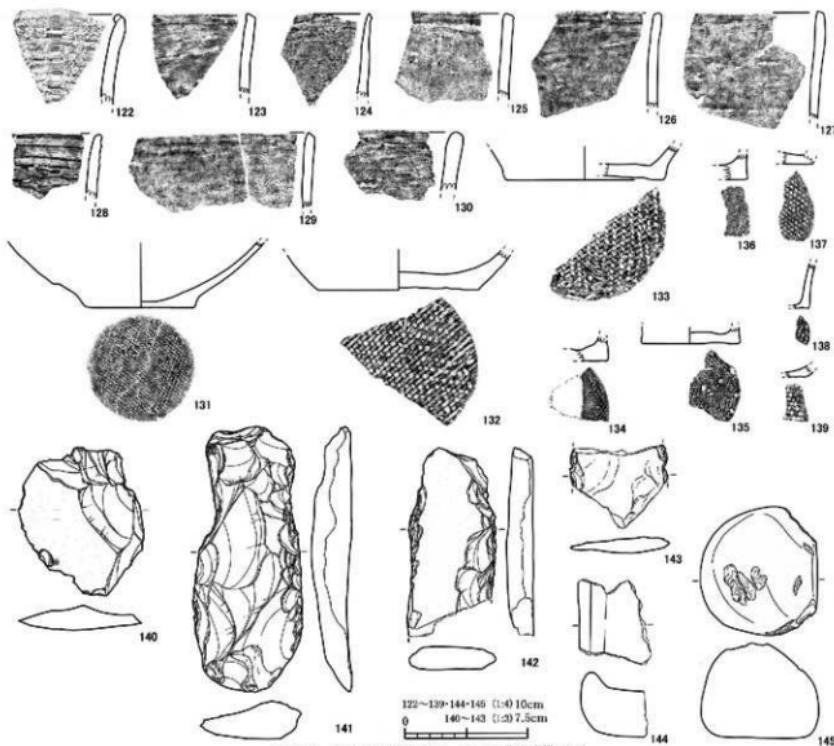
名寺式、堀之内1式、堀之内2式、加曾利B1、加曾利B2等

の土器と砥石・打製石斧・敲石等の石器が出土した。最下層第5層から弥生時代中期栗式土器、11の受口口縁甕・10の大型甕・7~9の壺・3の鉢が集中して出土。2点の弥生時代後期箱清水式の甕28・29は、上層からの出土。本址は断面形態・出土土器から弥生時代中期栗式期の環濠といえよう。

(2) M2号溝状遺構

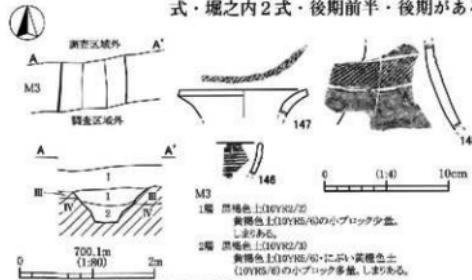


第34図 和田上遺跡II B地区 M2号溝状遺構 (1)

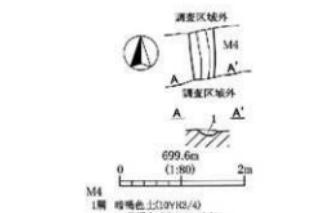


第35図 和田上遺跡B地区 M2号溝状構(2)

III-2GrにありH3を切り、D7に切られる。幅3.2m南西側は崖に向かい、北東側は調査区域外に延びる。深さは0.8m、溝底の両側にテラスがある。覆土3・4層は流水があったとみられるが、遺物は磨耗していない。出土した土器はすべて縄文時代で、中期後半・称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・後期前半・後期がある。本址の時期は、縄文時代後期が推測される。



第36図 和田上遺跡B地区 M3号溝状構



第37図 和田上遺跡B地区 M4号溝状構

(3) M 3 号溝状遺構

Ⅲき・く-8 G r にあり幅1.2mで深さは0.52m、断面は逆梯子形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。遺物は縄文時代加曾利B 1式深鉢・弥生時代栗林式壺が出土した。本址は、弥生時代中期栗林式期の所産であろう。

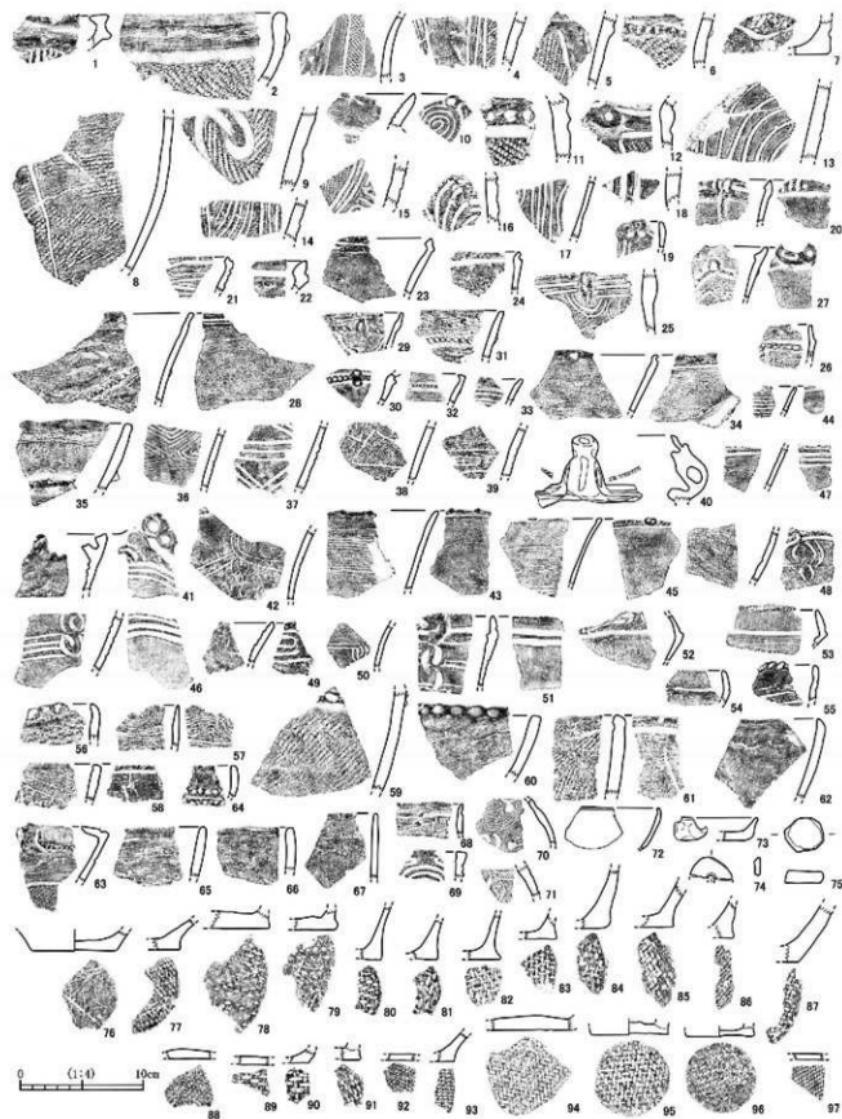
(4) M 4 号溝状遺構

Ⅲく-9 G r にあり幅0.4mで深さは0.10m、断面は「U」字形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。出土遺物はない。

4. ピット



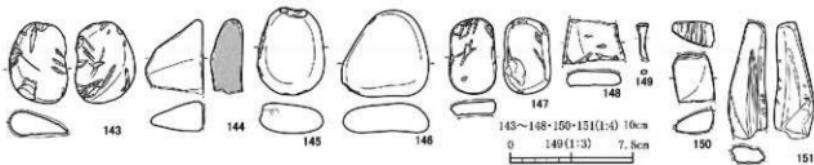
第38図 和田上道路II B地区 ピット



第39図 和田上遺跡II B地区 遺構外出土遺物(1)



第40図 和田上遺跡II B地区 遺構外出土遺物 (2)



第41図 和田上遺跡II B地区 遷構外出土遺物(3)

ピットは36基検出され、P3がH5脇、P33・P34がH4脇、P1・P2がD2・D8の縄文時代と重複し、他の31基は鉄塔予定地点にある。柱・杭等に関連しよう。P4・P5・P7・P9・P12・P18・P22・P34からは、縄文時代中期後半・堀之内2式・加曾利B1等の土器、P4から磨製石斧・P34から石鎌が出土。

5. 遷構外出土遺物

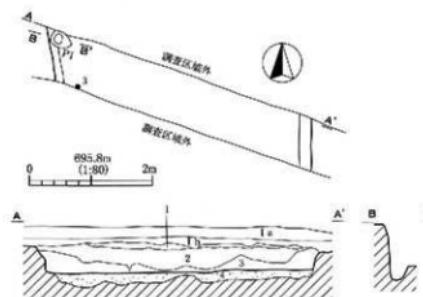
当然ながら遷構が密集する鉄塔予定地点とFトレーナーから大半が出土した。遺物は縄文時代中期中葉・中期後半・称名寺式土器はごく少量で縄文時代後期堀之内1・2式や加曾利B1式が多くみられた。

第3節 馬瀬口遺跡IIの遺構と遺物

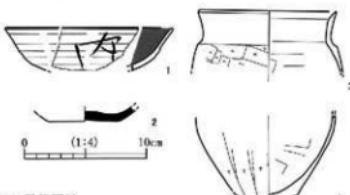
宇とう沢から市道東幹線まで650m幅0.8mの調査対象地にトレーナーを設定した。結果市道よりの東側地点に遷構が偏在していた。豊穴住居址1軒、溝状遺構4条、ピット2基を検出した。西側地点では、宇とう沢に向かう旧河川跡(M1・M2)が見られただけで、遺物の出土はない。

H1号住居址 東西壁一部を検出した。壁間は4.24m壁高0.44m床面は平坦で堅い。長径36cm短径24cm深さ24cmのP1は、少し東に傾く。遺物は内面黒色処理され、「内」が墨書きされる土師器壺1、底部回転糸切りの須恵器壺2、薄手の土師器甕3・4が出土した。小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

溝状遺構 いずれも両端が調査区域外に延びる。M5は住居址の可能性もある。M6は、第1次調査のM5と方向が合う。テラスを持つM3からは古墳時代後期7世紀代の土師器が出土した。



- 1番 黒褐色土(10YR6/2)黒褐色土(10YR6/1)の小ブロック
少々、淡黄褐色土(10YR8/4)の粗石(1~5cm)多量。
- 2番 黒褐色土(10YR6/2)淡黄褐色土(10YR8/4)の粗石
(1~5cm)多量。
- 3番 黒褐色土(10YR3/3)黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック
少々。
- 4番 に3番、黄褐色土(10YR5/4)に4番 黄褐色土(10YR6/3)
が主、淡黄褐色土(10YR8/4)の粗石(1~5cm)多量。

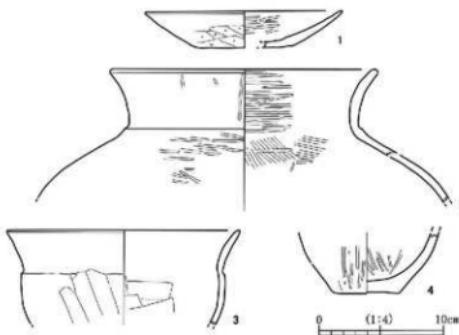
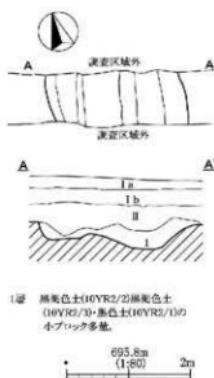


第42図 馬瀬口遺跡II H1号住居址

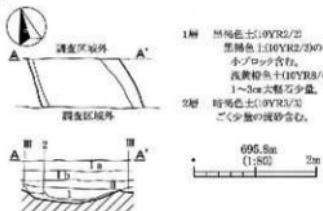
第4節 調査のまとめ

鉄塔建設予定地点を除くと幅1mにも満たない極狭い調査範囲であったが、和田上遺跡II A地区では、和田上南遺跡から続く弥生時代中期と平安時代(9世紀前半)集落の広がりが明らかになった。和田上遺跡II B地区では、豊富な縄文時代後期の遺物と石棺墓が検出された。さらに、佐久市平賀後家山遺跡に続く2例めとなった弥生時代中期栗式期の環濠が調査されたことは貴重な成果であった。

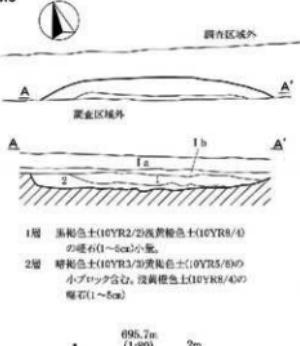
M3



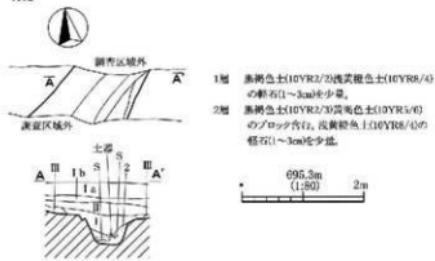
M4



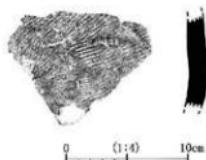
M5



M6



35Gr



第43図 馬瀬口遺跡II M3・M4・M5・M6号溝状遺構 遺構外出土遺物

第5表 和田上遺跡II B地区H 4・H 5・H 6・H 7号住居址・土坑出土遺物観察表

(cont)

No.	種別	器種	文様・調査・備考	標号	出土位置
49	陶文土器	深鉢	鉢内底 2本目2本割り		
No.	種別	素 材	底大径 壁厚 残高	重量	所 在
50	石 研	研石	6.3 4.7 1.7	96.40	三重・上部にすり面 斜面は後削痕か?
51	研石	研石	9.1 2.5 1.7	70.10	上・下研削面に削痕
52	石 研	磨瓦状マット	1.5 1.4 0.8	97.6	研石完璧
53	打刃石	研剥削物	<4.5> <5.5> <1.7>	<5.1>	上部欠損
54	竹 竹	竹	0.25	0.25	孔隙0.1
55	竹 竹	竹	0.25	0.25	孔隙0.1
H5 法 盆					
No.	種別	器種	口径(横) 深さ(横) 錐孔(横)	内 形	外 形
1	土師罐	陶	- 2.5	<2.5> ヘラミギキ・粘土・外側赤	ロクニナテ・底部の底切り・高台付?
2	土師罐	陶?	6.9 -	<6.9> ヘラミギキ・底部底切り・高台付?	ロクニナテ・底部底切り・高台付?
3	土師罐	陶	- 1.5	<1.5> ヘラミギキ・粘土・芯	ロクニナテ・底部底切り・高台付?
4	土師罐	灰	(14.0)	<4.0>	ロクニナテ・底部底切り
5	土師罐	灰	(13.0) (7.0)	3.5	ロクニナテ・底部底切り 色付?
6	土師罐	灰	-	ヘラミギキ・底部底切り	蓋裏?
7	土師罐	灰	(14.1)	<4.0> ヘラミギキ・花海文底 黑い底落	ロクニナテ
No.	種別	器種	文様・調査・備考	標号	出土位置
8	陶文土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	中頸骨付
9	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟
10	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟
11	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	左名舟?
12	陶土器	串	口両面に絞文LR		中頸骨付
H6 法 盆					
No.	種別	器種	口径(横) 深さ(横) 錐孔(横)	内 形	外 形
1	牛頭土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	中頸骨付
2	牛頭土器	深鉢	- -	二段に分った運搬跡例 地文に絞文LR	右名舟
3	牛頭土器	深鉢	13.6 -	<13.6> ヘラミギキ・ヘラミギキ	口沿と瓶底に絞文LR
4	牛頭土器	蓋	- 7.8	<11.0> ナツ	ヘラミギキ
No.	種別	器種	文様・調査・備考	標号	出土位置
5	武士土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	後頭骨付?
6	武士土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟
7	武士土器	深鉢	J字形の縦溝 縦2.8 横2.6		右名舟
8	武士土器	縫	縫下縫に小縫有		右之内?
9	武士土器	縫	縫の横縫帶を有		右之内?
10	武士土器	縫	縫の横縫帶を有		右之内?
11	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
12	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
13	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
14	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
15	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
16	武士土器	縫	縫有縫 縫縫から中央の縫に平行		右之内?
17	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟付?
No.	種別	器種	文様・調査・備考	標号	出土位置
18	陶文土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟付?
19	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟付?
20	石 研	磨瓦状マット	2.1 1.2 0.25	935	
H7					
No.	種別	器種	文様・調査・備考	標号	出土位置
1	陶文土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右名舟付?
2	陶文土器	深鉢	縦1.8 横2.6 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右之内?
3	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	右之内?
4	陶文土器	深鉢	縦2.0 横2.8 底厚0.4	内側に朱色・赤色・白の三層	加前頭付?
5	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
6	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
7	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
8	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
9	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
10	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
11	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
12	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
13	陶文土器	縫	縫縫(縫縫) 縫縫から外縫に		右名舟
14	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		右之内?
15	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		右之内?
16	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		右之内?
17	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		右之内?
18	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
19	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
20	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
21	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
22	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
23	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
24	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
25	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
26	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?
27	土師瓶	瓶	口付底部に朱色・赤色・白の三層		中頸骨付?

第10表 和田上遺跡II B地区遺構外出土遺物観察表

(cont)

件名	種類	形態	文書・圖解・照考	傳写	本土初期
1. 織文土器	瓦片	山東型瓦 異型瓦頭		山東瓦頭	日-レンチ
2. 織文土器	瓦片	菱形文 異型瓦		山東瓦頭	TT
3. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 異型瓦に類似する瓦片		山東瓦頭	TT
4. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦		山東瓦頭	A-レンチ
5. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 瓦片		山東瓦頭	C-レンチ
6. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 瓦片		山東瓦頭	TT
7. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 瓦片		山東瓦頭	TT
8. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 瓦片		山東瓦頭	TT
9. 織文土器	瓦片	菱形文山東型瓦 J字形瓦頭		山東瓦	TT
10. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
11. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	A-レンチ
12. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	B-レンチ
13. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	C-レンチ
14. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
15. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
16. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
17. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	E-レンチ
18. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	F-レンチ
19. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	G-レンチ
20. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	H-レンチ
21. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	I-レンチ
22. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
23. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭 二箇所に亘って瓦頭		山東瓦頭	2-レンチ
24. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	J-レンチ
25. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
26. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
27. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
28. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
29. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
30. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
31. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
32. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
33. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	B-レンチ
34. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
35. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
36. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
37. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
38. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
39. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
40. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
41. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
42. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
43. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
44. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
45. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
46. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
47. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
48. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
49. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
50. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
51. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
52. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
53. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
54. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
55. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
56. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
57. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
58. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
59. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
60. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
61. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
62. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
63. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
64. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
65. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
66. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
67. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
68. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
69. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
70. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
71. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
72. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
73. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
74. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
75. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
76. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
77. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
78. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
79. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
80. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
81. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
82. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
83. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
84. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT
85. 織文土器	瓦片	山東型瓦頭		山東瓦頭	TT

第11表 和田上遺跡II・B地区遺構外出土遺物觀察表

はじめに

和田上遺跡(佐久市瀬戸地内)は、佐久盆地の東部、八風山・荒船山塊の山麓から派生する丘陵端に位置する。本遺跡が位置する丘陵と志賀川を挟んで対岸の丘陵上には縄文時代中期の集落が確認された寄山遺跡が位置している。本遺跡の発掘調査では、縄文時代後期、弥生時代中期、古代の竪穴住居址や縄文時代中～後期、弥生～平安時代の土坑等が確認されている。

本報告では、発掘調査で出土した炭化材の年代や樹種、骨類の種類の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

I. 放射性炭素年代測定・樹種同定

1. 試料

試料は、B区D26とB区D28から出土した炭化材2点(No 1, 2)である。B区D26炭化材(No 1)は、覆土5層中から出土しており、約1cm角程度の破片である。B区D28炭化材は、D28北西より埋没木の可能性がある資料として採取されており、約1.5～2.0cm角程度の破片である。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料に土壤や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C (30分) 850°C (2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投人し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3 MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を校正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比は、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表1 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果						相対比	Code. No.	
No.1 WD II B区 D26 5層 炭化材 (オニグルミ)	3,470±20	-24.28±0.48	3,472±24	σ	cal BC 1,875	-	cal BC 1,843	cal BP 3,824	-	3,792	0.392	IAAA- 121641
					cal BC 1,818	-	cal BC 1,798	cal BP 3,767	-	3,747	0.203	
				2σ	cal BC 1,780	-	cal BC 1,746	cal BP 3,729	-	3,695	0.406	
No.2 WD II B区 D28 炭化材 (モクレン属)	13,700±40	-22.02±0.61	13,700±43	σ	cal BC 14,964	-	cal BC 14,805	cal BP 16,913	-	16,754	1.000	IAAA- 121642
					cal BC 15,055	-	cal BC 14,727	cal BP 17,004	-	16,676	1.000	
				2σ	cal BC 14,964	-	cal BC 14,805	cal BP 16,913	-	16,754	1.000	

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の剖断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995、1996、1997、1998、1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

出土炭化材の同位体効果による補正を行った測定年代(補正年代)は、B区D26 5層 炭化材(No.1)が3,470±20yrBP、B区D28 炭化材(No.2)が13,700±40yrBPを示す。また、暦年較正結果(測定誤差 σ)は、No.1がcalBP 3,824-calBP 3,695 (calBC 1,875-calBC 1,746)、No.2がcalBP 16,913-calBP 16,754 (calBC 14,964-calBC 14,805)である。

(2) 樹種同定

上述した炭化材2点は、いずれも広葉樹であり、No.1がオニグルミ、No.2がモクレン属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

- ・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2~3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1~3細胞幅、1~40細胞高。

- ・モクレン属近似種 (*Magnolia*) モクレン科

試料は小破片で、保存状態が悪く脆い。散孔材で、道管壁は中庸~薄く、横断面では角張った梢円形~多角形、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有するが、壁孔は破損して観察できない。放射組織は1~2細胞幅であるが、破損しており詳しい形態は不明である。

道管配列等の特徴から、モクレン属の可能性があるが、道管内壁の壁孔や放射組織が観察できないため、近似種とした。

4. 考察

B区D26 5層炭化材(No.1)からは、calBP 3,824-calBP 3,695 (3,470±20yrBP)という結果が得られた。この値は、関東地方を中心とした東日本の年代測定の調査例(小林、2008)に基づけば、縄文時代後期に該当する。また、炭化材はオニグルミに同定された。オニグルミは、河畔等の水分が多く、肥沃な土地に生育する落葉高木である。今回の結果から、縄文時代後期頃の本遺跡周辺に生育し、その木材が利用されたことが窺える。

佐久盆地周辺の同時期の事例では、郷土遺跡(小諸市)の縄文時代後期前葉とされる竪穴住居跡から出土

した炭化材を対象とした調査例があり、トネリコ属が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。

一方、B区D28炭化材(№2)は、calBP 16,913-calBP 16,754 (13,700±40yrBP)という結果が得られた。本資料は、発掘調査時の所見では、近接する寄山遺跡等の事例から、浅間火山の第1軽石流に埋没した樹木の可能性が示唆されていた。浅間火山第一軽石流は、早川(2010)のいう平原火砕流に相当するものであり、その噴出年代は暦年で15,800年前とされている。今回得られた年代は、これより1,000年ほど古い値ではあるが、年代算定基準の違い等も考慮すれば、今回の結果は火砕流によって埋没したという所見を支持する。

浅間火山の軽石流期の古植生に関する調査事例についてみると、上述した寄山遺跡における埋没樹は、すべて針葉樹のトウヒ属に同定されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995)。また、中長塚遺跡では、火砕流中の炭化材に針葉樹のマツ属單維管束亞属、モミ属、トウヒ属が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2001)。トウヒ属やマツ属單維管束亞属等のマツ科針葉樹は、南軽井沢のAs-YP(軽石流期の降下軽石)に覆われた埋没樹の樹種同定でも主体となる結果が得られている(能城ほか, 2004)。広葉樹は、南軽井沢でネズミサシ属やスイカズラ属がマツ科針葉樹に混じって確認された例や、中ツ原第1遺跡の13,000-14,000yrBPの年代を示した炭化材にコナラ節が確認された例(株式会社古環境研究所, 1996)等が挙げられる。

本遺跡の埋没樹に確認されたモクレン属は、川辺や渓谷等の比較的水分の多い土地に生育する落葉高木である。おそらく調査地付近に生育した樹木であることが推定される。

II. 骨同定

1. 試料

分析に供された出土骨は、B区H 2、B区D26 2層 取上№3、B区D35 3層から出土した3試料(№1～3)である。これらの試料は、いずれもクリーニングされた状態にある。

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

3. 結果

出土骨3試料は、いずれも破片で白色～灰黒色を呈し、ひび割れが生じる。以下、試料ごとに結果を記す。

(1) №. 1 : H 2

ニホンジカ?角?。ニホンジカの角の先端付近の可能性がある破片である。最大長26.5mm。断面は梢円形を呈しており、最大値11.5mm×9.7mm、最小値8.9mm×6.8mmを測る。

(2) №. 2 : D26 №. 3

獣類(は乳類)。部位不明の破片である。最大長14.9mm。

(3) №. 3 : D35

大型獣類(は乳類)。肋骨の可能性がある破片である。最大長42.2mm。

4. 考察

和田上遺跡から出土した骨は、いずれも破片で白色～灰黒色を呈し、ひび割れが生じるなど、焼骨の特徴が認められた。いずれも骨となった状態で火を受けたと考えられる。

B区H 2(№1)は、ニホンジカの角の先端付近の可能性がある。B区D26 №.3(№2)とB区D35(№3)は、いずれもは乳類であり、№3は大きさから、シカやイノシシなどの大型獣類の可能性がある。いずれも特徴的な部位がほとんど残存していないかったため、種類の同定には至らなかった。

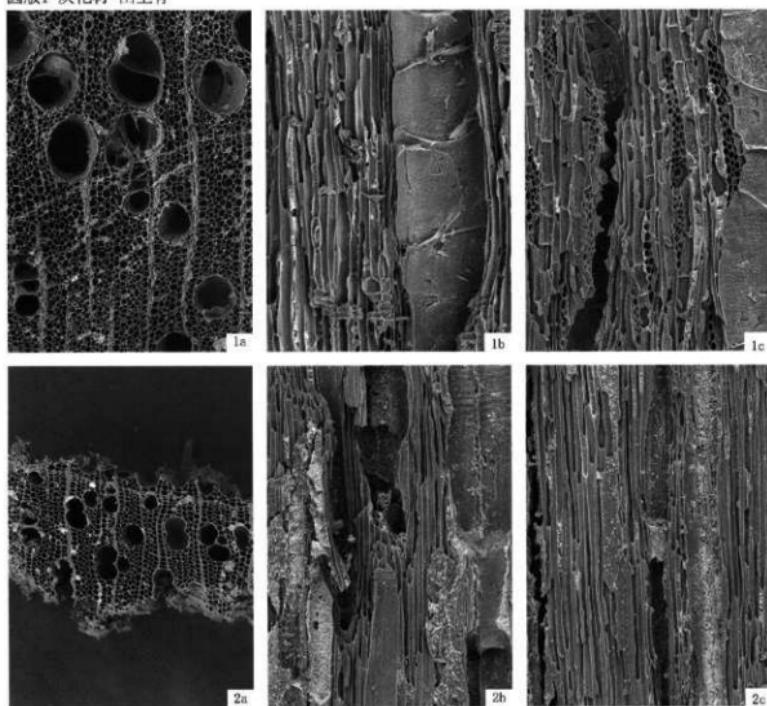
ニホンジカやイノシシ等の大型獣類は、日本各地の遺跡において焼骨として出土する事例がみられる。

本遺跡でも周辺に生育した獸類が狩猟の対象とされ、利用されていたと思われる。

引用文献

- 早川由紀夫, 2010, 浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く, 群馬大学教育学部紀要 自然科学 編, 58, 65-81.
- 林 昭二, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 株式会社古環境研究所, 1996, 中ツ原1G地点出土炭化材の樹種同定. 中ツ原第1遺跡G地点の研究Ⅱ, ハケ岳古石器研究グループ, 108-109.
- 小林謙一, 2008, 縄文土器の年代(東日本), 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器, 株式会社アム・プロモーション, 896-903.
- 能城修一・鈴木三男・辻誠一郎, 2004, 長野県南軽井沢に広がる浅間火山テフラに覆われた更新世最末期の埋没林・植生史研究, 13, 13-23.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 郷土遺跡出土炭化材の同定. 郷土 -長野県小諸市郷土遺跡発掘調査報告書-, 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集, 小諸市教育委員会, 52-57.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995, 寄山遺跡 約1.3万年前の埋没林と縄文時代中期の植物化石. 寄山湖畔に営まれた縄文中期集落の調査 寄山・寄山古墳, 長野県土地開発公社・佐久市教育委員会, 860-864.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2001, 中長塚遺跡・松ノ木遺跡の出土遺物鑑定. 一本松遺跡群 西一本柳遺跡群V・VI・中長塚遺跡I・II・松の木遺跡I・II, 佐久市埋蔵文化財調査報告書第91集, 佐久市建設事務所・佐久市教育委員会, 99-104.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*.]
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 炭化材・出土骨



1. オニグルミ (No.1; B区D26 3層)
2. モクレン属近似種 (No.2; B区D28)
a:木口, b:柾目, c:板目



3. ニホンジカ? 角? (No.1; B区H2)
4. 獣類 部位不明破片 (No.2; B区D26 No.3)
5. 大型獣類 肋骨? (No.3; B区D35)



馬瀬口道路Ⅱ調査区 東より



H 1号住居址 東より



H 1号住居址掘り方 東より



M 5号溝状造構 東より



M 3号溝状造構 東より



M 4号溝状造構 東より



M 6号溝状造構 東より



和田上遺跡Ⅱ調査地点より浅間山を望む



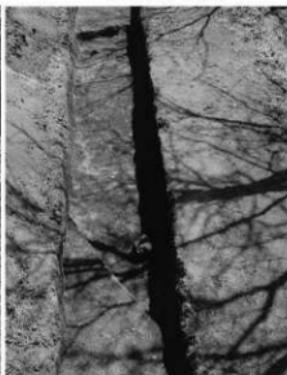
A地区遠景 西より



B地区近景 西より



A地区近景 西より



A地区 H1号住居址 西より



A地区 H1号住居址 遺物出土状況



A地区 H 1号住居址掘り方 東より



A地区 H 2号住居址 東より



A地区 H 2号住居址 西より



A地区 H 2号住居址 カマド



A地区 H 2号住居址 カマド掘り方



A地区 H 3号住居址 東より



A地区 H 3号住居址掘り方 東より



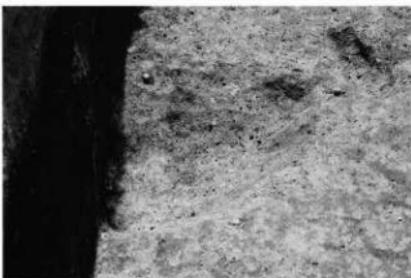
A地区 H4号住居址 東より



A地区 H4号住居址掘り方 西より



A地区 H4号住居址 炉



A地区 H4号住居址 炉掘り方



A地区 H5号住居址 東より



A地区 H5号住居址掘り方



A地区 II-6号住居址掘り方 東より



B地区近景 東より



B地区近景 西より



B地区 II-1号住居址 東より



B地区 II-1号住居址 炉



B地区 II-1号住居址 掘り方



B地区 H2号住居址 東より



B地区 H2号住居址掘り方 東より



B地区 H3号住居址 東より



B地区 H4号住居址 東より



B地区 H5号住居址 東より



B地区 H5号住居址 カマド



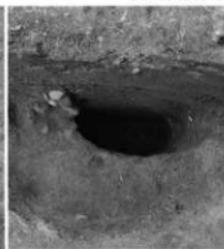
B地区 H 6号住居址 東より



B地区 H 7号住居址 西より



B地区 D 1号土坑 北より



B地区 D 2号土坑 P 2 北より



B地区 D 3号土坑 北より



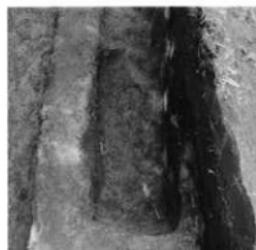
B地区 D 4号土坑 南より



B地区 D 5号土坑 北より



B地区 D 6号土坑 南より



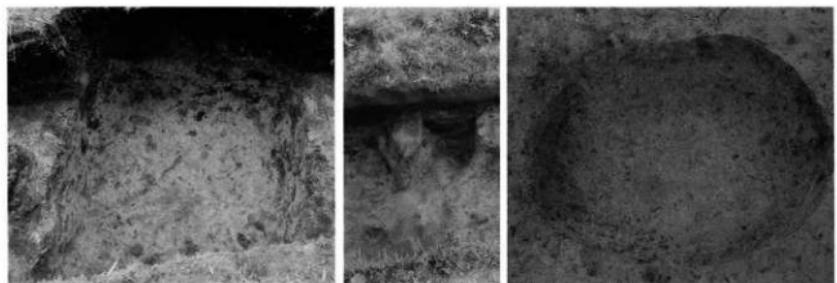
B地区 D 7号土坑 南東より



B地区 D 8号土坑 北より



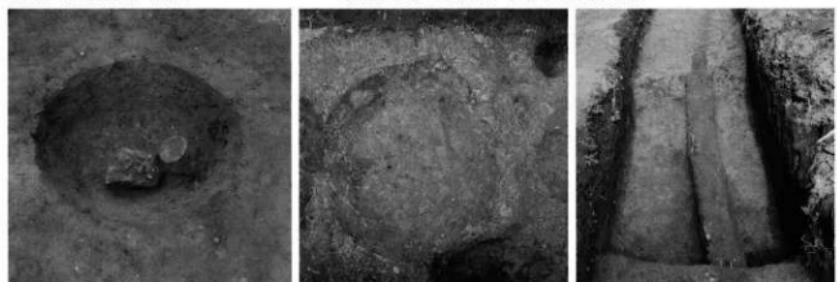
B地区 D 9号土坑 北より



B地区 D 11号土坑 南より

B地区 D 12号土坑 北より

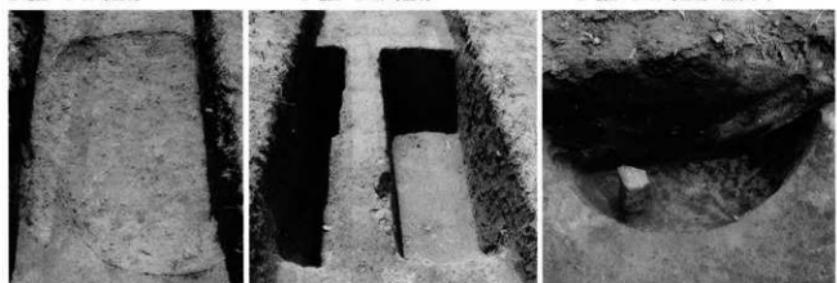
B地区 D 13号土坑



B地区 D 14号土坑

B地区 D 15号土坑

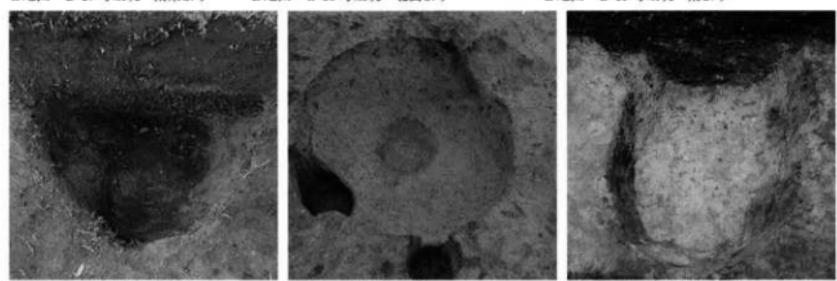
B地区 D 16号土坑 南東より



B地区 D 17号土坑 南東より

B地区 D 18号土坑 北西より

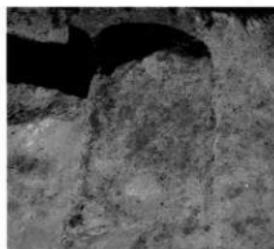
B地区 D 19号土坑 南より



B地区 D 20号土坑 北より

B地区 D 21号土坑

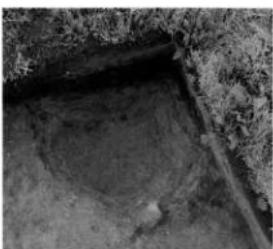
B地区 D 22号土坑 南より



B地区 D 23号土坑



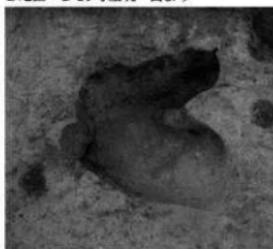
B地区 D 24号土坑 西より



B地区 D 25号土坑 北東より



B地区 D 26号土坑 北東より



B地区 D 28号土坑 南西より



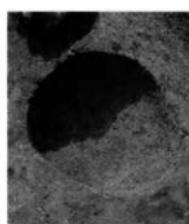
B地区 D 30号土坑 南東より



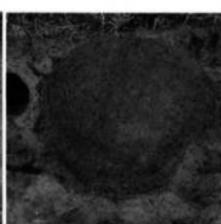
B地区 D 27号・D 33号土坑 南東より



B地区 D 27号・D 33号土坑 北東より



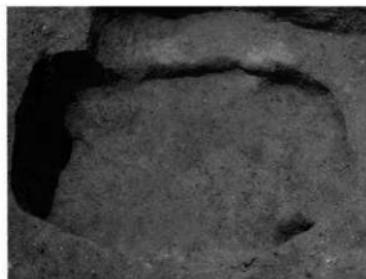
B地区 D 31号土坑 東より



B地区 D 32号土坑 南より



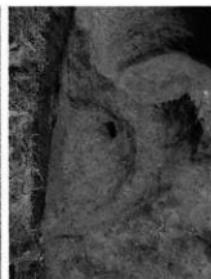
B地区 D 33号土坑 遺物出土状況 北東より



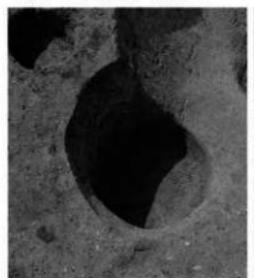
B地区 D 33号土坑 北東より



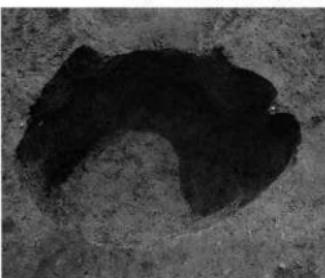
B地区 D 34号土坑 北東より



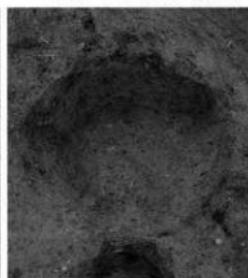
B地区 D 35号土坑 南西より



B地区 D 36号土坑 北より



B地区 D 38号土坑 北東より



B地区 D 39号土坑 北西より



B地区 D 40号土坑 東より



B地区 D 41号土坑 遺物出土状況

B地区 D 41号土坑



B地区 D 42号土坑 東より



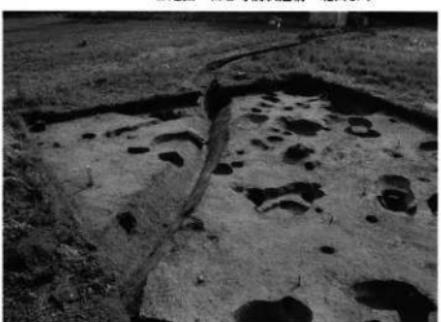
B地区 D 43号土坑



B地区 M 2号溝状遺構 北西より



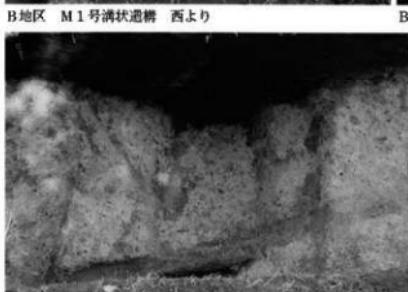
B地区 M 1号溝状遺構 西より



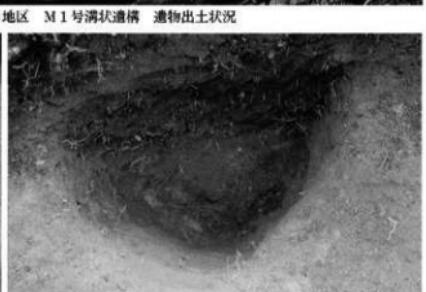
B地区 M 1号溝状遺構 東より



B地区 M 1号溝状遺構 遺物出土状況

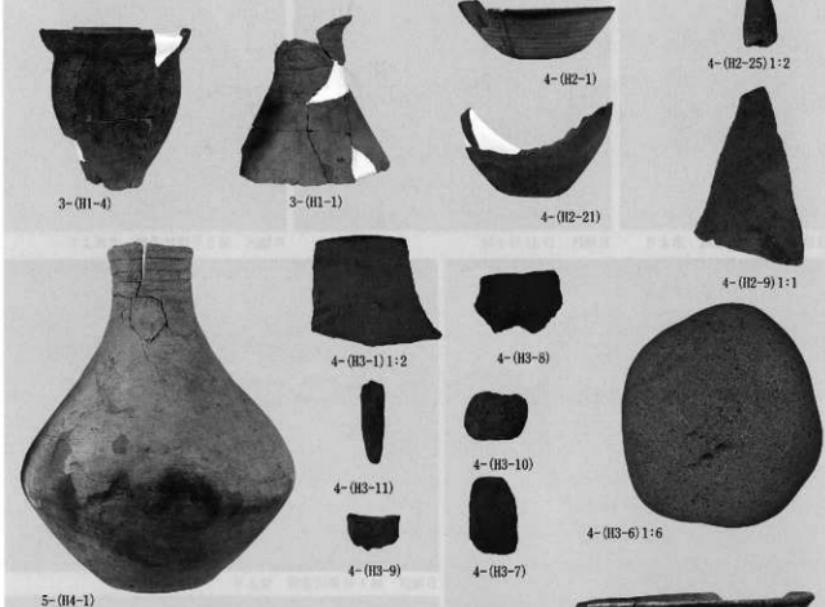


B地区 M 3号溝状遺構



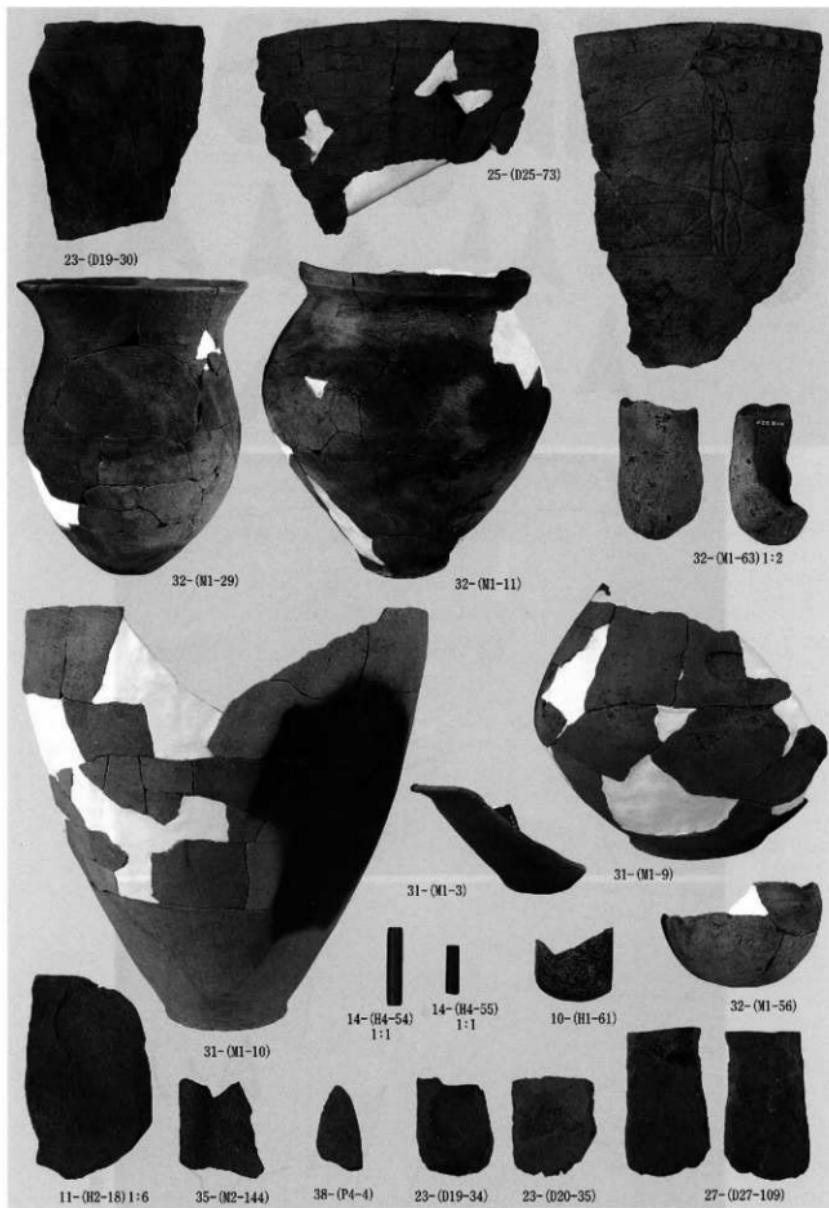
B地区 P 3 南より

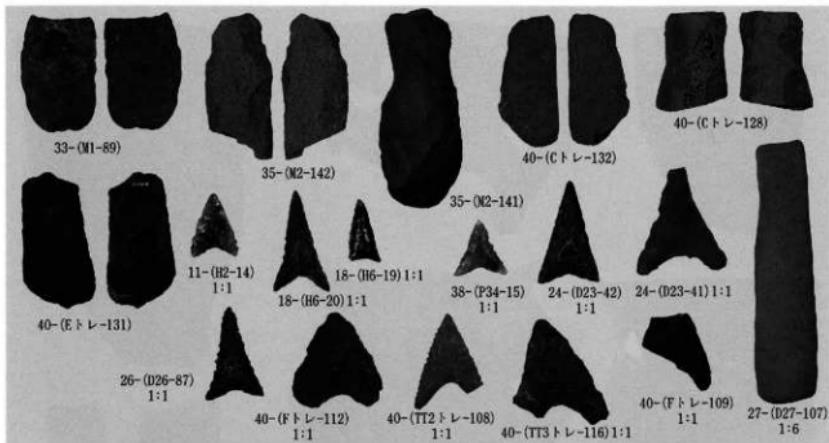
A 地區遺構出土遺物



B 地區遺構出土遺物







報告書抄録

書名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ	
ふりがな	たかしまちいせきぐんわだうえいせきに ませぐちいせきぐんませぐちいせきに	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第206集	
編著者名	林 幸彦 佐々木 宗昭	
編集・発行機関	佐久市教育委員会	
発行年月日	2013.3.25	
郵便番号	385-0006	
電話番号	0267-68-7321	
住所	長野県佐久市志賀5953	
遺跡名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ(WDⅡ)	馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ(SMMⅡ)
遺跡所在地	佐久市瀬戸2-2,30-1他	佐久市瀬戸86-1他
遺跡番号	129	250
経度	138°-29'-37" (世界測地系)	138°-29'-21" (世界測地系)
緯度	36°-15'-04" (世界測地系)	36°-15'-06" (世界測地系)
調査期間	2011.4.4~2011.6.8 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)	2011.4.4~2011.4.22 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)
調査面積	350.25m ²	43.2m ²
調査原因	佐久リサーチパーク供給線新設工事	佐久リサーチパーク供給線新設工事
種別	集落址	集落址
主な時代	縄文時代草創期・早期・中期・後期、弥生時代中期・後期 古墳時代後期、平安時代	古墳時代後期、平安時代
遺跡概要	遺構 積穴住居址13軒 (縄文後期、弥生中期、平安) 上坑47基 溝状造構4条 ピット36基 遺物 縄文土器・土製品 弥生土器 土師器 須恵器 鉄器 石器	遺構 積穴住居址1軒(平安) 溝状造構4条 ピット2基 遺物 上師器 須恵器
特記事項	縄文時代後期前半の石棺墓が検出された。 佐久市内では、希少な縄文時代後期の多くの土器・石器等が出土した。 弥生時代中期栗林式期の環濠が検出された。	平安時代馬瀬口遺跡集落の西への広がりが確認された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群 和田上遺跡 II

馬瀬口遺跡群 馬瀬口遺跡 II

2013年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印 刷 所 株式会社 佐久印刷所
